
「認知症にやさしいまち三鷹条例(仮称)」の制定に向けた
当事者等・市民意識調査結果 報告書

令和7(2025)年 10 月

三鷹市健康福祉部

目次

第1章 はじめに	1
1. 調査の背景と目的	1
2. 調査・意見聴取の概要	2
3. 本報告書の構成	4
第2章 調査結果(概要)	5
1. 基本施策への期待度	5
2. 認知症の人との接点と関心	6
3. 児童・生徒の認知症への関心	8
4. 地域生活への希望	10
5. 家族介護者支援の重要性	13
6. 社会参加の機会充実	15
第3章 基本理念・基本施策の方向性	17
1. 条例の名称に関して	17
2. 条例の「理念」に関して	17
3. 各主体の「役割」と「責務」に関して	18
4. 「基本的施策」の方向性に関して	19
第4章 おわりに	28
参考資料	29
1. アンケート調査票 	29
2. アンケート調査 単純集計結果 	37
3. ヒアリング調査結果(概要) 	55
4. ワークショップ結果(概要) 	61
小中学生のみなさんの声(自由記述)	65
5. 三鷹市認知症地域支援ネットワーク会議	73

第1章 はじめに

1. 調査の背景と目的

認知症は、誰もがなりうる身近なものであり、高齢化が進む三鷹市においても、すべての市民が関わる重要な課題となっています。国においては、令和6(2024)年1月に認知症基本法¹が施行され、認知症の人が尊厳と希望を持って地域で暮らすことのできる社会の実現が、国全体の目標として明確に掲げられました。

こうした背景を踏まえ

、三鷹市では、認知症に関する施策の根幹となる「認知症にやさしいまち三鷹条例(仮称)」の制定を、令和8(2026)年3月に向けて進めています。この条例が、市民一人ひとりにとって真に意味のあるものとなるためには、認知症の当事者、そのご家族や介護者、地域住民、そして未来を担う若い世代まで、多様な立場の方々の声に真摯に耳を傾け、その思いを丁寧に反映させていくことが不可欠です。

本調査は、この条例制定および今後の関連施策の検討に資することを目的として、市民の皆様の認知症に対する意識や、日常生活で感じている課題、行政への期待などを、様々な手法を用いて多角的に把握するために実施しました。

¹ 共生社会の実現を推進するための認知症基本法(令和5年法律第65号)

2. 調査・意見聴取の概要

本調査では、より広く客観的な傾向を把握する「アンケート調査」、個別の具体的なお話を伺う「ヒアリング調査」、そして地域での協働を促す「ワークショップ」の3つの方法で意見聴取を行いました。

調査結果概要(単純集計)等は、巻末(参考資料)に掲載しています。

(1) アンケート調査

ア 市民向けアンケート(紙面)

対 象:市内在住・在学・在勤の方

時 期:令和6(2024)年11月～令和7年(2025)年3月

方 法:市内イベント(商工まつり、中学校学園祭)等において配布・回収

回 答:216人

イ 市民向けアンケート(インターネット)

対 象:市内在住・在学・在勤の方

時 期:令和7年(2025)年6月1日～6月30日

方 法:インターネット(LOGO フォーム)により回答

回 答:1,811人

ウ 小中学生向けアンケート(インターネット)

対 象:市内在住・在学・在勤の方

時 期:令和7年(2025)年6月1日～6月30日

方 法:インターネット(LOGO フォーム)により回答

回 答:438人

(2)ヒアリング調査

ア 介護保険施設(認知症対応型グループホーム)

対 象:施設利用者*及び施設従事者

時 期:令和7年(2025)年5月～7月末

方 法:市職員及び地域包括支援センター職員の訪問によるヒアリング

協 力:市内5施設(認知症対応型グループホーム2施設、認知症対応型デイサービス2施設、小規模多機能型居宅介護 1施設)28 人

イ 家族・支援者等(家族会、認知症カフェ等)

対 象:会に参加されているご家族及び支援者等*

時 期:令和7年(2025)年5月～7月末

方 法:市職員及び地域包括支援センター職員の訪問によるヒアリング

協 力:市内5団体(三鷹市認知症家族介護者談話室、みたか・認知症家族のサロン・学習会、おれんじドア三鷹、にじいろひろば、MITAKA D-Cafe、コミュニティ・ガーデン)51 人

ウ 認知症当事者等(認知症当事者活動グループ)

対 象:会に参加されている認知症当事者及び家族、支援者等*

時 期:令和7年(2025)年5月～7月末

方 法:市職員及び地域包括支援センター職員の訪問によるヒアリング

協 力:市内3団体(くらしの研究会、スリーホークス)10 人

*ヒアリング調査協力に同意された方のみ。

(3)ワークショップ

地域包括支援センターが主体となり、市内7つの日常生活圏域において「認知症条例制定に向けた地域ワークショップ」を実施しました。

対 象:民生委員やほのぼのネット員含む地域住民、町会自治会関係者、介護保険事業所、ケアマネジャー、医療機関等

時 期:令和7年(2025)年6月1日～6月 30 日

方 法:地域包括支援センター職員がファシリテーションし、意見交換・共有

実 施: 7住区(日常生活圏域)

参加者: 212人

3. 本報告書の構成

本報告書は、以下の構成で調査結果を報告します。

(1)第2章 調査結果(概要)

上記の調査等から明らかになった特に重要な発見事項を要約します。

(2)第3章 基本理念・基本施策の方向性

調査結果を踏まえ、市の条例構成案に沿って理念・施策等への方向性を示します。

(3)第4章 おわりに

調査全体の結論を述べ、今後の展望を示します。

(4)参考資料

調査票や単純集計結果、小中学生の自由記述(全文掲載)等を掲載します。

【表記について】

本報告書では、アンケート等の集計結果における回答者数を「n」で表記しています。

例えば、「n=1,811」は「その設問に回答した人が1,811人」であることを示しています。

集計結果の「%」は、各設問に有効に回答した人数(n)を基礎として算出しています。

第2章 調査結果(概要)

今回のアンケート、ヒアリング、ワークショップを通じて、認知症に関する市民の皆様の意識や、当事者・介護者が直面する現実について、多くの重要な発見がありました。ここでは、条例制定に向けて特に重視すべきポイントを報告します。

1. 基本施策への期待度

市民向けアンケート(インターネット、n=1,811)で、条例の基本施策(案)8 項目から優先して取り組むべき施策を選択(最大3つ)してもらった結果は次のとおりです。

延べ選択件数は5,042件(1人あたり平均2.78項目)、上位2項目で延べ選択件数全体の約47%を占めています。

(n=1,811)

基本施策(案)	件数(全体に対する比率) ²
1 認知症の早期発見・早期支援	1,281件(70.7%)
2 地域における相談支援の充実	1,086件(60.0%)
3 普及啓発・理解促進・本人発信支援	619件(34.2%)
4 社会参加の機会の確保	554件(30.6%)
5 研究等の推進	534件(29.5%)
6 やさしいデザインのまちづくり	426件(23.5%)
7 権利擁護・意思決定支援	399件(22.0%)
8 施策推進計画の策定・評価・検証	143件(7.9%)

【属性別の傾向】

性別・年齢・接点の有無で全体順位は概ね共通。差は小さく、性別・年齢の差は±2～5ポイント程度にとどまります。一方、接点の有無ではわずかな差があり、「接点なし」層で早期発見・支援がやや高く、「接点あり」層では普及啓発・権利擁護が相対的に高い傾向が見られます(いずれも複数回答の選択者割合)。

² 複数回答(最大3項目)。割合は各項目の全体に対する比率＝件数／1,811で算出。

2. 認知症の人との接点と関心

要 旨

多くの市民が認知症の人との接点を持ち、認知症サポーターなど「地域での支え合い」の必要性や関心をもっています。

市民アンケート(インターネット及び紙面 n=2,027)では、回答者の約 8 割が認知症の人との接点あり(1,543 人 76.1%)と回答しました。

また、インターネット調査(n=1,811)では、認知症の人との接点の有無にかかわらず認知症サポーター養成講座への受講意欲が高く、とくに接点ありの層では「受講したい・受講済み」の合計が 71.4%(接点なしの層で 55.3%)でした。

認知症の人との接点 (n=1,811)	Q.認知症サポーター養成講座を受講したいと思いますか？			
	受講したい	受講済み	受講したくない (興味がない)	合計
あり (n=1,359) ³	56.2%	15.2%	28.6%	100%
なし (n=452) ⁴	50.7%	4.6%	44.7%	100%

また、認知症の人との接点「あり」と回答した方(n=1,359)のうち、半数以上(757 人 55.8%)は、「家族の中に認知症の人がいる(いた)」と回答しました。

そのほか、仕事(医療・介護関係)で関わった(348 人 25.8%)、外出先で見かけたことがある(281 人 20.7%)との回答も2割程度見られました。



関連するヒアリング結果より

- ・「身近に援助してくれる方がいればありがたい。一人ではできないこともある。」(認知症デイサービス利用者)
- ・「一番近いのは認知症サポーター。『大変だ』ではなく『安心だ』と言える人を増やしてほしい。」(認知症カフェ参加者)

³ 認知症の人との接点の有無について「私自身が認知症です(n=3)」と回答した方を含む。

⁴ 認知症の人との接点の有無について「分からない(n=92)」と回答した方を含む。

市民アンケート調査(自由記述)より

自由記述(n=1,061 件)のうち、111件(10.5%)は「認知症への理解や声かけの重要性」を訴えるご意見でした。

【ご意見(抜粋)】

- ・「家族や周りの人の理解と声掛けが大事だと思う。」(46 歳～50 歳・女性)
- ・「認知症になっても行政や地域の理解が十分あり、支援・相談体制の仕組みが確立され、安心して暮らせる街になってほしい。」(86 歳～90 歳・女性)

小中学生アンケート調査(自由記述)より

自由記述(n=161 件)のうち、50件(31.0%)は「認知症の方に対する理解や社会的支援」を求める声でした。

【ご意見(抜粋)】

- ・市の人へ 認知症の人が良い市だなと思う市にしてください。
(小学生(3, 4 年生)・女性)
- ・認知症の人でも楽しく人生をおくって生きていてほしいです。認知症の人のために協力している人がすごいと思いました。これからも頑張ってください！(小学生(5, 6 年生)・女性)
- ・地域包括支援センターや介護施設だけに丸投げするのではなく市民のみんながわかりあい協力することが大切だと思う(小学生(5, 6 年生)・女性)。

ワークショップ結果より

地域で開催のワークショップでは、認知症当事者の話について、ご意見・ご提案がありました。

【ご意見・ご提案(要旨)】

- ・当事者の言葉は、参加者の心に響く内容が多く誤解や偏見の解消にもつながった
- ・講演会での当事者の話は、希望の持てる話も多く、認知症へのイメージが大きく変わった

3. 児童・生徒の認知症への関心

要 旨

児童・生徒の多くは、「認知症」について学び、認知症の人との関わり方や接し方を知りたいと考えています。

小中学生アンケート(n=438)では、回答者の7割以上が「認知症という言葉聞いたことがある」(320人 73.1%)と回答した一方で、「認知症の人と会ったことがある(接点あり)」と回答したのは約4人に1人(110人 25.1%)でした。

また、認知症の人との接点の有無に関わらず約8割近くの児童・生徒が、「認知症について(とても・少し)知りたい」(327人 74.6%)と回答しました。

認知症の人との接点 (n=438)	Q. 認知症について、もっと知りたいと思いますか？				
	とても 知りたい	少し知 りたい	あまり 知りた くない	まったく 知りた くない	合計
あ り (n=110)	20.9%	51.8%	23.6%	3.6%	100%
な し (n=328)	20.7%	54.6%	19.5%	5.2%	100%



関連するヒアリング結果より

家族会では、「認知症の人やその家族」と児童・生徒との交流機会が学びや社会参加の機会にもつながるとのご意見もいただきました。

・「市として子どもと高齢者が交流できる場を考えてもらえれば私たちが協力できることもあるんじゃないかと思う。」(家族会参加者)



市民アンケート調査(自由記述)より

「認知症への理解や声かけの重要性」を訴えるご意見のなかでは、早い段階で(学校などでも)学べる機会の重要性なども多く聞かれました。

【ご意見(抜粋)】

- ・「認知症について正しく理解して社会全体でサポートできる体制を作る。子どもたちにも授業で学ぶ機会を作る等。」(41歳～45歳・女性)
- ・「学校などでの講演会、早いうちからの啓発が必要。」(20歳～25歳・女性)



小中学生アンケート調査(自由記述)より

自由記述では、認知症について学びたいという声も聞かれました。

【ご意見(抜粋)】

- ・「認知症にならないようには、どうしたらいいのかが知りたいです。また、にんちしょうになった人に出会ったら、どう対応したらいいのかも、知っておきたいです。」(小学生(5, 6年生)・女性)
- ・「認知症の方と一緒に遊んでみたい。学びたい。」(小学生(1, 2年生)・男性)
- ・認知症の人を助けることが出来るか知りたいです。(小学生(5, 6年生)・男性)
- ・最近祖父が軽い認知症になり、自分が忘れられたらなど不安に思うことが増えています。学校の授業などで介護の仕方、いい接し方などを教えてくれると今後活用できると思います。(中学1・女性)



ワークショップ結果より

地域で開催のワークショップでは、子どもの学びの機会について以下のご意見・ご提案がありました。

【ご意見・ご提案(要旨)】

- ・認知症の知識について、小学生にも広める必要があるという視点が新鮮だった。
- ・認知症の人との関わりの経験が子どものうちからあると偏見の無い社会になるのでは等の意見が多数あった。

4. 地域生活への希望

要 旨

多くの市民は、「認知症」になっても住み慣れた地域で暮らし続けたいと考えています。

市民アンケート(n=1,811)では、回答者の約 6 割の方が「認知症になっても、今まで暮らしてきた地域で生活していきたい」(1,093 人 60.4%)と回答しました。

地域生活の継続希望は、認知症の人との接点の有無で見ると、「接点がある(あり)」の方(846 人62.3%)と「接点がない(なし)」の方(247 人 54.6%)で、有意な差がありました。一方、施設での生活を希望する方で「認知症の人との接点の有無」に有意な差はありませんでした。

認知症の人 との接点 (n=1,811)	Q. あなたが認知症になった場合、 どのように暮らしたいと思いますか。？		
	地域で暮らしたい ⁵	施設で暮らしたい ⁶	合計 ⁷
あ り (n=1,359)	62.3%	37.3%	99.6%
な し (n=452)	54.6%	36.7%	91.3%

また、選択肢「その他(自由記述)」(n=51)では、家族への介護・経済負担等の不安から、施設での生活をせざるを得ないといったご意見も多く寄せられました(33件 64.7%)で寄せられました。

⁵ 「認知症になっても、できないことを自ら工夫して補いながら、今まで暮らしてきた地域で生活していきたい」若しくは「認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していきたい」を選択した方

⁶ 「認知症になったら、介護施設で必要なサポートを利用しながら暮らしたい」を選択した方

⁷ 「わからない」「その他」を選択した方を除外した



市民アンケート調査(その他:自由記述)より

- ・「家族や地域に迷惑かけたくない。」(41 歳～45 歳・男性)
- ・「1 人で暮らせるレベルなら地域や社会のサポートを頂き自宅で過ごせたらと思いますが、症状の状態により難しい場合は施設に入りたい。家族の精神的負担になる事は避けたいです。」(41 歳～45 歳・女性)



関連するヒアリング結果より

地域で暮らし続けるための住民同士の助け合いや交流機会の創出などの重要性」を訴えるご意見などが多く聞かれました。

【ご意見(抜粋)】

- ・家族や地域の人と一緒に見守れる仕組みを作りたい
(認知症デイサービス利用者)
- ・住み慣れた地域で暮らすための連携体制づくりが急務
(認知症デイサービス利用者)
- ・地域に居場所があることで、家族も安心できる(認知症グループホーム利用者)



市民アンケート調査(自由記述)より

自由記述でも「住み慣れた地域」での暮らしの希望が多く聞かれました。

【ご意見(抜粋)】

- ・家族と相談しながら住み慣れた家で暮らしたい(66 歳～70 歳・男性)
- ・住み慣れた自宅で家族とできるだけ長く暮らしたい(61 歳～65 歳・女性)



小中学生アンケート調査(自由記述)より

自由記述では、住民同士が助け合える環境への期待の声が聞かれました。

【ご意見(抜粋)】

- ・助けてささえる町(小学生(3, 4年生)・女性)
- ・認知症の人でも助け合い喜びがあふれる町にしたい(小学生(3, 4年生)・男性)



ワークショップ結果より

地域で開催のワークショップでは、地域で暮らし続けることについて以下のご意見・ご提案がありました。

【ご意見・ご提案(要旨)】

- ・孤独にならず気軽に話せる相手がいること、挑戦する場があることが大切。
- ・歩道段差・根上がりの優先整備(速やかな補修の継続)、電動車いすも考慮した傾斜・幅員の再点検をしてほしい。
- ・公的書類の「大きな文字・やさしい日本語・例示・ピクト化・記入補助」標準化してほしい。

5. 家族介護者支援の重要性

要 旨

「認知症になると、様々な面で家族に負担がかかってしまう」と考える方が多くいます。また、実際に家族介護者として経験された方々からは、身体的・精神的・経済的な負担が現実としてかかっている現状が語られました。

市民アンケート(n=1,811)での「認知症と聞いて思い浮かぶイメージ」の問いに、回答者の約半数が「家族への負担(介護など)が心配」(832 人 45.9%)と回答しました。これは、全ての選択肢(15 肢)の中で一番の比率となりました。

認知症の人との接点の有無や男女間における有意差は見られませんでした。年齢層別には、特に 31～45 歳の層で高い傾向にありました。

また、自由記述(n=1,061)のうち1割弱(74 件 7.0%)には、家族の負担軽減策を求める意見が見られました。



市民アンケート調査(自由記述)より

家族への負担に対する「不安」や「軽減への期待」の声が多く聞かれました。

【ご意見(抜粋)】

・支える家族や周りのサポートをする立場の人が疲弊することなく、かかる負担が集中することなく、健康でいられるための支援体制が重要と思う

(46 歳～50 歳・女性)

・家族の負担を軽減できるサポートの充実が必要(41 歳～45 歳・女性)

・家族だけのサポートでは無理がくる(76歳～80歳・女性)

・家族の負担を考えると施設に入ること…(51 歳～55 歳・女性)

・…自宅で介護するのは無理としか言えない(66歳～70歳・女性)

・認知症の家族の負担を減らす仕組み作り(66歳～70歳・男性)

・家族に負担をかけるのが一番心配…(36歳～40歳・女性)

・家族は仕事をしながらのサポートとなりとても大変(46歳～50歳・男性)

・家族のサポートができるだけ負担軽減となるような支援

(46歳～50歳・男性)

・家族の精神的負担も軽減されると助かる(46 歳～50 歳・女性)



関連するヒアリング結果より

地域で暮らし続けるための住民同士の助け合いや交流機会の創出などの重要性」を訴えるご意見などが多く聞かれました。

【ご意見(抜粋)】

- ・介護離職しないようなそれも家族支援ということですね(家族会参加者)
- ・家族が一番大変。〇〇さんがお話されていた通り、家族が本人をずっと24時間見ている。1日2時間でも対応していただけるボランティアの支援を充実してほしいなと思います(家族会参加者)



小中学生アンケート調査(自由記述)より

自由記述では、家族への負担を軽減できる環境への期待の声がありました。

【ご意見(抜粋)】

- ・認知症の家族がいるとそれを介護するお母さんが大変。お母さんがいつもばあばのことばかりお世話して寂しい。かわいそうだと思うけど、お母さんをもう少し楽にさせてあげたいし、もっとお母さんと一緒に過ごしたい。

(小学生(1, 2年生)・女性)



ワークショップ結果より

地域で開催のワークショップでは、家族介護者支援について以下のご意見・ご提案がありました。

【ご意見・ご提案(要旨)】

- ・家族にも限界が来るので、家族介護者も支援して欲しい。

6. 社会参加の機会充実

要 旨

「認知症」になっても、自分らしく尊厳をもって暮らすためには、他者との交流や居場所の創出・拡充が不可欠です。

市民アンケート(n=1,811)では、約3割の方が期待する施策として「社会参加の機会の確保」(554 人 30.6%)を挙げました。他の項目とのクロス集計では、認知症になった後の暮らし方の希望(地域で暮らしたい・施設で暮らしたい)により有意な差が見られました(下表参照)。

期待する 基本施策	Q. あなたが認知症になった場合、 どのように暮らしたいと思いますか。?	
	地域で暮らしたい ⁸ (n=1,093)	施設で暮らしたい ⁹ (n=674)
社会参加の 機会の確保 を選択した人	390 人 35.7%	160 人 23.7%



市民アンケート調査(自由記述)より

自由記述でも「社会参加の充実」に対する希望が多く聞かれました。

【ご意見(抜粋)】

- ・どんな形でも自分の役割があること、社会参加が出来ることはとても大切なことだと思います。地域や住民が理解をして孤立しない、外に出る事が重要ではないかと思います(41歳～45歳・女性)
- ・気軽に参加できるような場所(遠慮、萎縮せずに参加できる)が増えたらよい。(81歳～85歳・男性)
- ・地域の人達とつながって少しでも社会参加して1人ぼっちにならない様になりたい。(71歳～75歳・女性)
- ・認知症でも働ける場所の提供(認知症カフェや作業所)(46歳～50歳・女性)

⁸ 「認知症になっても、できないことを自ら工夫して補いながら、今まで暮らしてきた地域で生活していきたい」若しくは「認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していきたい」を選択した方

⁹ 「認知症になったら、介護施設で必要なサポートを利用しながら暮らしたい」を選択した方



関連するヒアリング結果より

【ご意見(抜粋)】

- ・特に若年性認知症の人にとっては就労が大事

(認知症カフェ参加者)



ワークショップ結果より



地域で開催のワークショップでは、当事者等の活躍について以下のご意見・ご提案がありました。

【ご意見・ご提案(要旨)】

- ・当事者同士が気軽に話ができる場、挑戦する場が欲しい。
- ・認知症サポーターフォローアップ受講後に、サポーターとしてワークショップの運営側として協力した。
- ・公会堂・コミュニティ施設の常設サロン化、参加の敷居を下げる広報をしてほしい(「来るだけで OK」など)。
- ・近隣エリア単位での「フラット(集いの場)」を拡充してほしい。

第3章 基本理念・基本施策の方向性

市民意識調査結果等で明らかになった課題を踏まえ、条例に盛り込むべき理念や具体的な施策の方向性を、市の条例構成案の骨格に沿って提言します。

各項目において、条例そのものに記述すべき【条例へのご意見・ご提案 】と、条例に基づいて市が実行すべき【施策へのご意見・ご提案 】を分けて記載します。

【条例へのご意見・ご提案 】

1. 条例の名称に関して

(1)「認知症にやさしいまち三鷹」の名称について

認知症の有無にかかわらず、すべての市民にとって「住み慣れた地域で暮らし続けたい」との意思は、普遍的かつ当然の希望です。他方、誰もが生涯のどこかで認知症とともに生きる可能性がある時代にあって、従来の「守る側―守られる側」という一方向の構図を前提とする表現(〇〇にやさしい)は、令和6年(2024)1月施行の認知症基本法が掲げる理念(共生・人権の尊重・社会参加の推進等)との整合に照らし、当事者の自分らしさ(尊厳・意思・役割)を十分に表現し得ない恐れがあります。

そのため、本市がめざすべきは、当事者・家族・地域が役割を分かち合い、相互に支え合う「共生」の実現であり、その理念が名称段階から明確に伝達されることが必要です。以上を踏まえ、条例の名称を、現行案の「認知症にやさしいまち三鷹」に代えて、「認知症とともに生きるまち三鷹」等、共生の理念を正面から示す表現へと改めるべきです。

【条例へのご意見・ご提案 】

2. 条例の「理念」に関して

(1)「家族等の負担にも配慮した、本人の意思の表明と実現」について(追加)

市民の多くが住み慣れた地域での生活継続を望む一方、家族等の負担を懸念して希望を表出できない・実現しにくい現状があります。理念の段階で、本人の意思の表明と実現が家族等の負担の有無によって左右されないことを明確化し、支え合いの体制整備につなげるよう明示するべきです。

【条例へのご意見・ご提案 ぬ】

3. 各主体の「役割」と「責務」に関して

(1)市の役割について

市の役割を最大限に発揮できるよう「認知症当事者や家族等の声を定期的に聴き」、市民や事業者、専門機関など多様な主体と協働していくことを明確に位置づけるべきです。

(2)事業者の役割

地域の事業者(商店、金融機関、交通機関等)の役割として、利益追求だけでなく地域社会を見守る「身近な拠点」となることへの協力に努める旨を盛り込むべきです。

【施策へのご意見・ご提案 ♪】

4. 「基本的施策」の方向性に関して

(1) 認知症の早期発見・早期支援

本調査では、早期発見・早期支援に対する関心が高く、もの忘れ(認知症)健診の必要性等についても、アンケートの自由記述やヒアリングで繰り返し指摘されました。比較的初期の段階であれば、薬物療法等により認知機能の維持の期待もあることから、本施策では次の取組みについて具体的に検討を進めるべきです。

【具体的な取組み】

- ・軽度認知障害(MCI)¹⁰段階のスクリーニング機会の検討

🗨️ 関連する市民の声(自由記述)

・毎年やる健診である程度の年齢になったら認知症の検査をする仕組み 認知症の疑いがある家族を物忘れ外来に連れて行く最初のステップにとっても苦労したので

(56～60歳・女性)

・社会全体で早期診断早期介入、その後のサポート体制を構築してほしい。介護を理由に子どもや配偶者の労働環境や人生を壊したくない。

(36～40歳・男性)

・もしかしたら認知症かもと感じた時にすぐに受診に繋げることも大切だと思います。年月が経つと病院に行くことを拒む人が多いので。

(51～55歳・女性)

・病院に行く機会の無い人でも早く受診出来ると良いなと思います。

(小学生(5, 6年生)・女性)

・認知症ではなくても、高齢者の方々のための定期検診サービスを行うこと、または、その無償化は、いわば三鷹市だけでなく、国家において、重要な政治課題だと思います。

(小学生(5, 6年生)・男性)

¹⁰ 軽度認知障害/Mild Cognitive Impairment:年齢相応の範囲を超えた認知機能の低下が客観的に認められるものの、全般的な認知機能や日常生活能力は維持されている状態。

(2)地域における相談支援の充実

相談支援の充実では、主に地域包括支援センターが地域のワンストップ窓口であることを、高齢者のみならずその支援者である「家族等」へも周知するべきといった声が一定数あったことから、本施策では次の取組みについて具体的に検討すすめるべきです。

【具体的な取組み】

- ・幅広い世代への「ワンストップ窓口(地域包括支援センター)」としての周知

関連する市民の声(自由記述)

・認知症の当事者やその家族含めて、現時点ではどこに相談してよいのか分からない為、あらゆる相談窓口や支援いただける箇所の情報をもっと知ることが必要に思いました。

(51～55 歳・女性)

・認知症本人や家族の相談窓口が何処なのかの情報が欲しい。

(46～50 歳・男性)

・地域包括支援センターの存在に辿りつき、相談するまで気力が必要だった。難しいと思うが、待っているのではなく、高齢者世帯に積極的に介入してほしい。

(46～50 歳・女性)

・地域包括支援センターの存在を周知するような情報発信がもっと必要だと思います。

(51～55 歳・女性)

・こども避難所のように認知症の人かな？何か困っているのかな？などお店(コンビニなど)相談がしやすい窓口ができればいいと思う。

(小学生(1, 2年生)・男性)

・各地域包括支援センターに認知症地域支援推進員配置がされ、体制が充実されたことがよかった。

(ワークショップ参加者)

・困った時にすぐに相談できる医師がいると安心できる。

(ワークショップ参加者)

(3)普及啓発・理解促進・本人発信支援

地域での支え合いとともに、偏見・誤解の解消と本人の声の可視化を求める意見が多数ありました。また、小中学生向けアンケートでは、認知症について関心があり「知りたい」と答える児童・生徒数が多い一方で、「どうしたらよいか分からない」と答える割合も高かったことから、下記の取組みを検討すべきです。

【具体的な取組み】

- ・教育委員会と協働した認知症の理解・啓発促進の取組み
- ・当事者・家族の発信機会(本人講話、作品展示、会議等)の創出
- ・特に無関心層に向けた面的な啓発(例.商店街の街路灯フラッグ、庁舎横断幕、公用車パネル等の取組みが誰の目にも触れる環境づくり)

関連する市民の声(自由記述)

- | | |
|---|-----------------|
| ・認知症についての授業(当事者が先生になる)みたいなことをすれば市民の理解が深まるかと思いました | (中学3年生・女性) |
| ・子供達も身近にないと認知症について理解が深まらない。 | (小学生(1,2年生)・女性) |
| ・小学生など、小さい時からこういう病気があるということを教えてみんなで分かっておけるほうが、大きくなってから学ぶより頭に入りやすいと思う。 | (中学3年生・女性) |
| ・認知症サポーター養成講座やフォローアップを年間通して実施してほしい。 | (ワークショップ参加者) |
| ・認知症当事者の話が有効。イメージが変わった。 | (ワークショップ参加者) |

(4)社会参加の機会の確保

「役割を持ち続けたい」「仲間とつながりたい」との希望が確認されたほか、小中学生からは、「子どもたちとの交流」などの提案も見られました。社会参加は、他者交流や活動などを通じた生きがいの創出をめざすべきです。

【具体的な取組み】

- ・多世代での交流を含めた地域の居場所(認知症カフェ等)の創出・拡充
- ・障害者就労施設等と協働した社会的雇用機会創出の検討

関連する市民の声(自由記述)

・認知症になっても出来ることはたくさんあると思うので社会参加できる仕組みが必要だと思います。

(41～45歳・女性)

・高齢になっても働き続けることができる仕事が多いとよいし、勉強など続けられる環境 機会が必要ではないかと思います。

(66～70歳・女性)

・地域の子供から大人まで、認知症の方と関わる機会を設けて、偏見や差別がないようにしたい。交流会、認知症の方が働けるカフェがあるといい。

(36～40歳・女性)

・認知症の方々にとどまらずお年寄りと子供が接触できるような場所。昔遊びのふれあいなど

(小学生(5, 6年生)・男性)

・認知症の人といっしょに交流するプログラムがあるといいと思う。そのプログラムで認知症が軽くなる取り組みを作ったらいいと思う。

(小学生(3, 4年生)・女性)

・認知症の人が集まって話をしたり、それを手伝う人がいる場所があるといい

(小学生(5, 6年生)・男性)

・社会参加の確保、認知症サロン、認知症カフェ、お仕事等、多様な場を用意してほしい。

(ヒアリング参加者)

・優先レジなど増えて、ゆっくりと買い物ができるようになった。安心して外出できる雰囲気を作してほしい。

(ワークショップ参加者)

(5)研究等の推進

調査では「認知症予防」に係る研究や新しい取組への期待も一定の支持がありました。そのため、今後以下の取組みを検討していくべきです。

【具体的な取組み】

- ・三鷹市福祉 Labo どんぐり山及び民間事業者等と協働した、認知機能の維持・改善プログラム(運動・認知課題・栄養・交流の複合)の検討及び検証

関連する市民の声(自由記述)

- | |
|---|
| ・症状の改善、または緩和に向けた研究や臨床支援への公的サポート
(66～70歳・女性) |
| ・認知症になる前から予防出来ることを気軽に知りたい。わかりやすく実践できる知識を専門家の方から教えて貰える機会があると有り難い。
(46～50歳・女性) |
| ・まずはならないこと、予防に力を入れる活動を促進することが大事だと思います。
(36～40歳・女性) |
| ・認知症にならないようには、どうしたらいいのかが知りたいです。
(小学生(5, 6年生)・女性) |
| ・認知症の人に5分でもいいから脳トレをやって少しでも知識を覚える
といいんじゃないのかなと思います。
(小学生(5, 6年生)・男性) |
| ・福祉ラボどんぐり山での研究とコラボレーションができるのでしょうか？
(ヒアリング参加者) |

(6)やさしいデザインのまちづくり

キーワードとして「(ひとり歩きなどで)迷わない」「(情報が)分かりやすい」などを含むご意見が多くみられました。これらは、認知症の人や高齢者に関わらず全ての市民の方に関係することから市では次の取組みについて検討を進めるべきです。

【具体的な取組み】

・だれにとっても分かりやすいデザイン(ハード・ソフトに関わらず)の先進事例の調査研究

〔例 サイン・導線の標準化(色・形・配置)、ピクトグラム統一、市政情報の分かりやすい発信(やさしい日本語、重要語のアイコン化、読み上げ対応)、公文書(申請書・案内)の簡素化 等〕

📝 関連する市民の声(自由記述)

・わかりやすい三鷹市〇〇1丁目などの表示(迷子になったときに居場所がわかる)

(56～60歳・女性)

・出先で記憶がなくなって何が困るかと言えば、家に帰れないことが困ると思うので重要場所(市役所、交番、駅等)への道案内表示があると良いと思う。

(31～35歳・女性)

・誰にでも分かるような案内板の設置。

(36～40歳・女性)

・表示等が見やすく、わかりやすい町。

(56～60歳・女性)

・認知症の人が自分の家が分からなくなったりした時に、気軽に助けを求められるような分かりやすい場所がたくさんできるといいと思います。

(小学生(3,4年生)・女性)

・住所や個人情報をメモできるアプリがあればいい。具体的な内容を書けたり、ハッキリとした大きい字で表示されるのがいいと思う。

(小学生(5,6年生)・女性)

・道を広く綺麗にして下さい。

(小学生(5,6年生)・女性)

・道路・標識・トイレサイン等のわかりやすさ、配布書類や窓口のわかりにくさ改善してほしい。

(ヒアリング参加者)

・歩道の段差・けやきの根っこで躓く等、歩行環境の改善をしてほしい。

(ヒアリング参加者)

・施設等のデザインの工夫を検討してもらいたい。

(ワークショップ参加者)

(7)権利擁護・意思決定支援

自由記述では、終活へ向けた本人の希望や家族を含めた話し合い(ACP¹¹、財産、成年後見等)の必要性などが多く語られたことから、市でも主に下記の実組について検討をしていくべきです。

【具体的な取組】

- ・全年齢層における ACP の気運醸成の取組
- ・単身高齢者等の終活サポート事業の検討

関連する市民の声(自由記述)

・まずは、自己責任で終活を考える。そのための情報発信、講座、助成などを公共が担う必要があると思います。

(61～65 歳・女性)

・進行した場合を考えて様々な事を事前に決めておく&進行した場合施設生活もあるので事前に財産確認し管理方法も決めておく必要があると思われます。

(66～70 歳・男性)

・進行が軽いうちに本人の希望(終活や相続問題)なども話し合える環境と機会作りがあると、本人も介護者も安心して生活出来ると思います。

(31～40 歳・女性)

・元気な内に法的に終活ルールを決めたい。それを行政・福祉がフォローしていただけるとありがたい。

(51～55 歳・女性)

・「私の人生ノート」等で意思表示を残すことが大切

(ヒアリング参加者)

・成年後見制度、財産管理など周知してほしい。

(ヒアリング参加者)

・本人意思能力を最優先し、成年後見、遺言、家族信託、エンディングノート等の備えについて周知してほしい。

(ワークショップ参加者)

¹¹ ACP (アドバンス・ケア・プランニング/Advance Care Planning)

将来の意思決定能力の低下に備え、本人を主体にその家族や近しい人、医療・ケアチームが繰り返し話し合いを行い、本人の生き方や価値観、希望する医療やケアを共有するプロセスです。「人生会議」という愛称でも呼ばれています。

(8)家族介護者等支援(仮称)(新規追加)

「家族の介護負担」「休息の場(レスパイト)」の必要性は、自由記述で最も強く示された論点です。そのため市は、「家族介護者等支援」を基本施策として新たに追加したうえで、以下の取組みについて検討を進めるべきです。

【具体的な取組み】

- ・レスパイト(短期入所・一時預かり・緊急対応)の一層の充実
- ・家族の交流・学びの場(家族会・BPSD 対応の家族教室)の充実
- ・民間事業者と連携した家族介護者の就労継続支援の充実

関連する市民の声(自由記述)

・周りの家族に負担をできるだけかけさせずサポートしやすい環境づくりをどうするか考えることが大事

(51～55歳・男性)

・ひとりで抱え込まない様にまた家族のサポートも大切だと思います。

(71～75歳・男性)

・家族の方にたいしては、話せる人、相談できる人が必要だと思います

(61～65歳・女性)

・家族や地域の人に認知症を理解していただき、できないことを指導するのではなく、できることを尊重した関わり、生活のサポートをしていただきたい

(46～50歳・女性)

・近所付き合いが希薄な昨今ですが、認知症の家族を家族だけでフォローするのは絶対と言っていいほど無理なので、家族に認知症患者がいることを隠さず、オープンにし近所の方々にも声かけなど、今まで通りに接していただきたい。

(61～65歳・女性)

・認知症についての知識を持っているまちづくり。そうすれば、街中でもどうすればいいかわかるし、親戚や家族が認知症になった時に、どう接すれば良いのか、自分はどうすれば良いのかかわかると思います。

(中学1年生・女性)

・もし家族が認知症になったら、自分はどうすればいいか気になる。

(小学生(5,6年生)・男性)

・介護者談話室など、介護する方が煮詰まらないように話せる場の重要である。

(ヒアリング参加者)

・比較的低価格で入所できる専門施設を作ってほしい

(ワークショップ参加者)

・家族介護者が元気であるために、レスパイト(デイサービスの利用・夜間の対応等)の活用等の発言が複数あり。

(ヒアリング参加者より)

(9) 施策推進計画の策定・評価・検証

市は認知症施策の総合的な推進と、市民、認知症当事者及びその家族への説明責任を果たすため以下の取組みを検討すべきです。

【具体的な取組み】

- ・認知症施策推進計画における KPI¹²の設定と毎年公表

関連する市民の声(自由記述)

・市全域で検討すべき課題を整理(横のつながり、人員体制、連携の必要性等)してもらいたい。

(ワークショップ参加者より)

¹² KPI (重要業績評価指標/Key Performance Indicator)

自治体の施策や事業が、最終的な目標である KGI (重要目標達成指標) に対してどの程度達成できたかを、具体的な数値で測るための中間指標です。

第4章 おわりに

本報告書では、「認知症にやさしいまち三鷹条例(仮称)」の制定に向けて、アンケート、ヒアリング、各地域でのワークショップを通じて、多くの市民の皆様から寄せられた貴重な意見や経験を分析し、具体的なお意見・ご提案としてまとめました。これらのご協力とお力添えに改めて深く感謝申し上げますとともに、本報告書を基に条例制定に向けて「三鷹市認知症地域支援ネットワーク会議¹³」においても丁寧に検討を深めて参ります。

この条例の制定は、決してゴールではなく、これらの貴重なご意見を基に、三鷹市に関わる全ての方が、認知症についてともに考え、行動していくための新たなスタートラインだと考えています。本報告書で示されたご意見・ご提案が、条例の条文や今後の施策に活かされるとともに、市民、事業者、医療・介護関係者、そして行政がそれぞれの役割を果たしながら連携・協働していくための羅針盤となり、誰もが、認知症になってもならなくても、このまちで自分らしく、尊厳と希望を持って暮らし続けられる。そんな三鷹市の未来に向け、本報告書がその一助となることを心から期待し、また、改めて本調査にご協力いただきました全ての皆様へ感謝を申し上げ結びとします。

三鷹市健康福祉部高齢者支援課

¹³ 三鷹市認知症地域支援ネットワーク会議

三鷹市認知症地域支援ネットワーク会議設置要綱による会議。構成員等については、巻末の参考資料 p 73 を参照。

参考資料

1. アンケート調査票

本報告書の分析の基となった、市民の皆様および小・中学生に実施したアンケートの質問票です。

(1) 市民向けアンケート調査票(紙面)

設 問	選択肢
Q.1 あなたについておしえてください	(1)性別 男 女 (2)年齢 10代～70代(10歳刻み) 80歳以上
Q.2 認知症の人と接したことがありますか？	ある ない わからない、私自身が認知症です
Q.3 どのような場面で認知症の人と接しましたか？(複数回答可)	家族の中に認知症の人がいる(いた) 親戚の中に認知症の人がいる(いた) 近所付き合いの中で認知症の人と接した 外出先などで、たまたま認知症の人を見かけた 医療・介護の現場以外の仕事を通じて 医療・介護の現場で働いている(いた) その他
Q.4 あなたがもつ認知症に対するイメージを3つ教えてください。	(1)(2)(3) 自由記述
Q.5 あなたが認知症になった場合、どのように暮らしたいと思いますか？ (複数回答可)	認知症になっても、できないことを自ら工夫して補いながら、今まで暮らしてきた地域で生活していきたい 認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していきたい 認知症になると、身の回りのことができなくなってしまうので、介護施設で必要なサポートを利用しながら暮らしたい 認知症になったら、介護施設で必要なサポートを利用しながら暮らしたい →差し支えなければ(理由:) 認知症になったら(なっても)、ひとりで暮らしていきたい →差し支えなければ(理由:)

	<p>わからない</p> <p>その他</p>
<p>Q.6-① 三鷹市では「認知症にやさしいまち三鷹条例(仮称)」の制定に向けた取組みを進めています。次の中から、あなたが興味のある、または大切だと思う項目を教えてください。(複数回答可)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症に関する普及啓発・理解促進・本人発信支援 ・社会参加の機会の確保 ・認知症の早期発見・早期支援 ・権利擁護・意思決定支援 ・地域における相談支援の充実 ・認知症の人にもやさしいデザインのまちづくり ・研究等の推進 ・認知症施策推進計画の策定、施策の評価・検討のための仕組み
<p>Q. 6-② 6-①でその項目を選んだ理由を教えてください。</p>	<p>自由記述</p>
<p>Q.7 あなたは、認知症になっても自分らしく暮らし続けられるまちにするために、 どんなことが必要だと思いますか。ご自由にお書きください。</p>	<p>自由記述</p>

(2)市民向けアンケート調査票(インターネット)

設 問	選択肢
Q.1 あなたの年齢を教えてください。	小学生(低学年) 小学生(高学年) 中学生 16 歳～18 歳 19 歳～20 歳 21 歳～25 歳～86 歳～90 歳(5 歳刻み) 91 歳以上
Q.2 あなたの性別を教えてください	男性 女性 その他
Q.3 お住まい(若しくはお勤め)の地域を教えてください	--三鷹駅周辺地域-- 下連雀 1 丁目から 4 丁目 上連雀 1 丁目から 5 丁目 --連雀地域-- 下連雀 5 丁目から 9 丁目 上連雀 6 丁目から 9 丁目 野崎 1 丁目 --井の頭地域-- 井の頭 1 丁目から 5 丁目 --東部地域-- 牟礼 1 丁目から 7 丁目 北野 1 丁目から 4 丁目 新川 2 丁目、3 丁目 --新川中原地域-- 中原 1 丁目から 4 丁目 新川 1 丁目、4 丁目から 6 丁目 --西部地域-- 井口 1 丁目から 5 丁目 深大寺 1 丁目から 3 丁目 野崎 2 丁目から 4 丁目 --大沢地域-- 大沢 1 丁目から 6 丁目

Q.4 ご職業を教えてください(任意)	会社員 公務員 自営業・自由業 パート・アルバイト 専業主婦・主夫 学生 無職 その他
Q.5 認知症の人と接したことがありますか？	ある ない わからない 私自身が認知症です
(Q.5で「私自身が認知症です」と回答した方のみ) 差支えなければ診断された認知症の種別を教えてください	アルツハイマー型認知症 血管性認知症 レビー小体型認知症 前頭側頭型認知症
Q.6 どのような場面で認知症の人と接しましたか？(複数回答可)	家族の中に認知症の人がいる(いた) 親戚の中に認知症の人がいる(いた) 近所付き合いの中で認知症の人と接した 外出先などで、たまたま認知症の人を見かけた 医療・介護の現場で働いている(いた) 医療・介護の現場以外の仕事を通じて
Q.7 認知症と聞いて思い浮かぶイメージを3つ選択してください (最大3つ選択)	1. 生活の工夫や周りのサポートがあれば、問題なく生活できる 2. 穏やかで、周りを和ませるような人もいる 3. 地域や社会全体で支え合う仕組みが必要だと思う 4. 予防のためにできることがある(生活習慣の見直し、社会参加など) 5. 早く気づいて対応することが、進行を遅らせるために重要だと思う 6. ご本人の気持ちを尊重した接し方が大切だと思う

	<p>7. 病状(記憶がしずらくなる、感情の起伏が激しくなるなど)の進行が不安</p> <p>8. 日常生活への影響(運転、料理が出来なくなるなど)が心配</p> <p>9. 家族への負担(介護など)が心配</p> <p>10. 経済的な不安(仕事が続けられなくなるなど)がある</p> <p>11. 孤立しやすくなる、社会とのつながりが減るなどの不安がある</p> <p>12. 自分や家族もなるかもしれないという心配がある</p> <p>13. 分からない</p> <p>14. 考えたくない</p> <p>15. その他</p>
Q.8 あなたが認知症になった場合、どのように暮らしたいと思いますか。	<p>認知症になっても、できないことを自ら工夫して補いながら、今まで暮らしてきた地域で生活していきたい</p> <p>認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していきたい</p> <p>認知症になったら、介護施設で必要なサポートを利用しながら暮らしたい</p> <p>認知症になったら(なっても)、ひとりで暮らしていきたい</p> <p>わからない</p>
(Q.8で「認知症になったら(なっても)、ひとりで暮らしていきたい」と回答した方のみ) 「認知症になったら(なっても)、ひとりで暮らしていきたい」と回答した方 差し支えなければ理由を教えてください。	自由記述
Q.9 三鷹市では「認知症にやさしいまち三鷹条例(仮称)」の制定に向けた取組みを進めています。次の中から、あなたが興味のある、または特に大切だと思う項目を3つ教えてください。(最大3つ選択)	<p>認知症に関する普及啓発・理解促進・本人発信支援(認知症サポーターの養成、当事者の講演会など)</p> <p>社会参加の機会の確保(認知症カフェ、当事者のピアサポート事業など)</p> <p>認知症の早期発見・早期支援(認知症の診断料助成など)</p>

	<p>権利擁護・意思決定支援(認知症当事者の権利の保護など)</p> <p>地域における相談支援の充実(相談できる窓口の充実など)</p> <p>認知症の人にもやさしいデザインのまちづくり(施設等での記憶に頼らず行動できる空間づくりなど)</p> <p>研究等の推進(認知症の進行を遅らせる取り組みなど)</p> <p>認知症施策推進計画の策定、施策の評価・検討のための仕組み</p>
Q.10 あなたは、認知症になっても自分らしく暮らし続けられるまちにするために、どんなことが必要だと思いますか。ご自由にお書きください。	自由記述
Q.11 認知症サポーター養成講座をご存知ですか？	<p>知っている</p> <p>聞いたことはあるがよく知らない</p> <p>知らない</p>
Q.12 認知症サポーター養成講座を受講したいと思いますか？	<p>既に受講してオレンジリングを持っている。</p> <p>受講してみたい</p> <p>受講したくない(興味がない)</p>

(3)小中学生向けアンケート調査票(インターネット)

設 問	選択肢
Q.1 あなたの学年(がくねん)を教えてください。	小学生(1, 2年生) 小学生(3, 4年生) 小学生(5, 6年生) 中学1年生 中学2年生 中学3年生
Q.2 あなたの性別(せいべつ)を教えてください	男性 女性 答えない
Q.3 あなたは、認知症(にんちしょう)という言葉聞いたことがありますか？	ある ない
Q.4 「認知症」と聞いて、どんなことだと思いますか？	ものわすれをしやすくなること 道にまようことがあること いつもと様子がかわることがあること 高齢者の人だけがかかるもの こわいもの 自分には関係ないこと だれでもなるかもしれないこと まわりの人が助けることが大切なこと やさしさが必要なこと よくわからない
Q.5 認知症の人に会ったことがありますか？	ある ない
(Q.5で「ある」と回答した方のみ) Q.6 そのとき、どんなことを感じましたか？	とくになにも感じなかった どう接したらいいか戸惑った 少しこわいと思った かわいそうだと思った 助けてあげたいと思った もっと話してみたいと思った
Q.7 もし困っているお年寄りの人を見かけたらどうしますか？	やさしく声をかける

	<p>近くのお店の人や駅員さんなど、信頼できるおとなの人に知らせる</p> <p>自分ではどうすることもできないと思う</p> <p>見て見ぬふりをしてしまうかもしれない</p>
Q.8 認知症について、もっと知りたいと思いますか？	<p>とても知りたい</p> <p>少し知りたい</p> <p>あまり知りたくない</p> <p>まったく知りたくない</p>
Q.9 (「とても知りたい」「少し知りたい」と答えてくれた人へ)どんなことを知りたいですか？	<p>認知症ってどんな病気？</p> <p>どうして認知症になるの？</p> <p>認知症の人はどんな気持ち？</p> <p>私たちにできるお手つだいは？</p> <p>三鷹市ではどんな取り組みをしているの？</p>
Q.10 (「とても知りたい」「少し知りたい」と答えてくれた人へ)どのように知りたいですか？	<p>先生(せんせい)や専門家(せんもんか)のお話を聞く</p> <p>動画(どうが)やアニメを見る</p> <p>認知症の人と直接(ちよくせつ)お話する</p> <p>マンガや絵本を読む</p> <p>VR(ゲームなど)で学ぶ</p> <p>学校(がっこう)のみんなで考える</p> <p>インターネットで調(しら)べる</p>
Q.11 (さいごに)認知症のことや、認知症の人も暮らしやすいまちづくりについて、あなたが思うことや、市にお願いしたいことがあれば自由に書いてください。	自由記述

2. アンケート調査 単純集計結果

(1) 市民向けアンケート(紙面)

Q1:あなたについて教えてください

選択肢	件数(件)	割合(%)
10 代	12	6%
20 代	10	5%
30 代	17	8%
40 代	28	13%
50 代	40	19%
60 代	35	16%
70 代	39	18%
80 歳以上	34	16%
未回答	1	0%
合計	216	100%

選択肢	件数(件)	割合(%)
男性	69	31.9%
女性	128	59.3%
未回答	19	8.8%
合計	216	100.0%

Q2:認知症の人と接したことがありますか？

選択肢	件数(件)	割合(%)
ある	172	80%
ない	24	11%
わからない	7	3%
私自身が認知症です	12	6%
未回答	1	0%
合計	216	100%

Q3:どのような場面で認知症の人と接しましたか？(複数回答可)(n=344)

選択肢	件数(件)	全体に対する 比率(%)
家族の中に認知症の人がいる(いた)	84	24%
親戚の中に認知症の人がいる(いた)	47	14%
近所付き合いの中で認知症の人と接した	57	17%
外出先などで、たまたま認知症の人を見かけた	31	9%
医療・介護の現場以外の仕事を通じて	31	9%
医療・介護の現場で働いている(いた)	53	15%
その他	21	6%
未回答	20	6%

Q4:あなたがもつ認知症に対するイメージを3つ教えてください。

【認知・記憶機能の低下】

・「もの忘れ」「人の名前が出てこない」「短期記憶障害」「記憶力が低下する」「記憶が残らない」「昔の記憶はあるが最近のことを忘れる」「時間や場所がわからなくなる」「新しい物事への消極性」「行く方向がわからなくなる」「食べたことも忘れる」

・「簡単なことができなくなる」「排泄の問題」「物盗られが聞かれる」等、記憶や認知に関する具体的な症状のイメージが多数。

・「身内だけでなく自分のことも忘れる」「家族の顔がわからなくなるのは怖い」「会話ができない」「話が噛み合わない」など、自分自身や身近な人に関する不安も多い。

【性格・人格の変化・行動面】

・「人格が変わる」「怒りっぽくなる」「攻撃的」「暴言をいう」「自己主張が強くなる」「がまんできなくなる」「行動がのろい」「がんこな部分がある」「本人が何を考えているのか分かりにくい」等、性格・感情の変化に対するイメージ。

・「人と接するコミュニケーションが減ると進行が早まる」「会話ができない・理解不足」「会話ができない」「相手を理解するのが難しい」など、対人能力・コミュニケーションの困難さに関する印象が多い。

【心理的・社会的な不安・孤立】

・「自分でも自分の判断が信じられなくなり不安になる」「不安が強くなる」「本人の不安が大きい」「家族が抱える不安」「認知症になったら生活が大変になる」「認めたくない(本人も家族も)」「周りから理解されないことで孤立する」「社会参加ができなくなる」「引きこもる」「孤立、他者とのつながり途絶え」など。

・「家族が無理解で傷ついている」「家族の負担が大きい」「疲弊する(虐待が起こる可能性も)」「家族が大変」「施設で孤独な生活」「家族の体力・財力が必要」など、家族・介護者の負担に関する記述も目立つ。

【支援・工夫・希望の重要性】

・「色々やってあげないといけない」「家族や周りのサポートが必要」「町会単位でのサポートが必要なのは」「早期の対応・活動が大切」「共に生きること」「工夫次第で苦手なことがクリアできることもある」「工夫をすれば自身の力で生活することができる」「自立支援」「周りの人のフォローが必要」「認知症があってもなくてもみんな同じ」「私、認知症なの」と気軽に話せる社会に」など。

・「意外と何とかなる」「中には明るく過ごしている人もいる」「本人は意外と大変ではないかも」「楽しそう」「元気」「いつも笑顔」「和む」「おだやかです」など、希望や前向きなイメージの記述も一部あり。

【知識・理解の不足・社会的課題】

・「認知症の理解が十分ではなく、疲弊する」「あまり知識がない」「よく知らない」「認知症そのものを理解していない(本人が)」「発症しない人もいる」「誰でも可能性がある」「年齢に関係なく発症する」「どのような予防があるのか分からない」「いくつもの種類がある」「意外と種類がある」「症状の度合いにより生活は大きく変わる」「個人差が大きい」「レベルの差が広い」等。

・「周囲の偏った理解が多い」「認知症になったとき、何を思って生きるか分からない」「善悪で判別することではない」「身近に人がいないので未知の分野」「関わりたくない」など、社会的な認知・偏見・個人差への言及も。

Q5:あなたが認知症になった場合、どのように暮らしたいと思いますか。
(複数回答可)(n=338)

選択肢	件数(件)	全体に対する 比率(%)
認知症になっても、できないことを自ら工夫して 補いながら、今まで暮らしてきた地域で生活して いきたい	103	30.5%
認知症になっても、医療・介護などのサポートを 利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活し ていきたい	108	32.0%
認知症になると、身の回りのことができなくなっ てしまうので、介護施設で必要なサポートを利用 しながら暮らしたい	40	11.8%
認知症になったら、介護施設で必要なサポートを 利用しながら暮らしたい	25	7.4%
認知症になったら(なっても)、ひとりで暮らして いきたい	19	5.6%
わからない	9	2.7%
その他	6	1.8%
未回答	28	8.3%

Q6:三鷹市では「認知症にやさしいまち三鷹条例(仮称)」の制定に向けた取組みを進めています。次の中から、あなたが興味のある、または大切だと思う項目を教えてください。(複数回答可)(n=476)

選択肢	件数(件)	全体に対する 比率(%)
認知症に関する普及啓発・理解促進・本人発信支援	80	16.8%
社会参加の機会の確保	82	17.2%
認知症の早期発見・早期支援	81	17.0%
権利擁護・意思決定支援	44	9.2%
地域における相談支援の充実	76	16.0%
認知症の人にもやさしいデザインのまちづくり	46	9.7%
研究等の推進	31	6.5%
認知症施策推進計画の策定、施策の評価・検討のための仕組み	22	4.6%
未回答	14	2.9%

Q7:あなたは、認知症になっても自分らしく暮らし続けられるまちにするために、どんなことが必要だと思いますか。ご自由にお書きください。

- (1) 認知症への理解を深める
 - ・偏見をなくし、誰でもなりうるものとして理解する
 - ・認知症の進行や対応方法について学ぶ機会を増やす
 - ・世間の認知症に対するイメージを変える
 - ・若いうちから認知症に関わる体験を持つ
- (2) 地域全体で支える仕組みづくり
 - ・地域住民の理解と協力(見守り・声掛け)
 - ・認知症サポーターを増やす取り組み
 - ・認知症カフェなどの気軽に立ち寄れる場の設置
 - ・同じ仲間とつながる機会の提供(仕事、食事、交流)
- (3) 医療・介護・行政の支援強化
 - ・医療・介護サービスへのアクセス向上(平日昼間以外の対応強化)
 - ・在宅医療の充実と多様な支援体制
 - ・地域包括支援センターの活動の周知・強化
 - ・介護者への支援や相談窓口の整備
- (4) 認知症の方が暮らしやすい環境整備
 - ・ソフト面(心のバリアフリー)とハード面(バリアフリーなまちづくり)の両立
 - ・外出や移動のしやすさの確保
 - ・交流の場へ気軽にアクセスできる仕組みづくり
 - ・施設周辺環境整備(外出を続けられる工夫)
 - ・服に住所や識別情報を記載し、徘徊時の安全を確保
- (5) 家族や介護者への支援
 - ・家族が認知症を受け入れるためのサポート
 - ・介護者が相談できる体制の強化
 - ・認知症の知識や支援情報の提供
 - ・仕事と介護を両立しやすい仕組みづくり
- (6) つながりを大切にする社会づくり
 - ・近所の人とつながり、支え合う文化の醸成
 - ・友達や地域住民との交流の場を増やす
 - ・サポーターではなく「パートナー」として関わる意識改革
- (7) 認知症の人が役割を持てる社会
 - ・できることを活かし、できないことを支える仕組み
 - ・外出先での会話や仕事の機会を提供
 - ・認知症になっても「自分らしく」生きられる社会の実現

(2)市民向けアンケート(アンケート)

Q1: あなたの年齢を教えてください。(n=1,811)

選択肢	件数(件)	割合(%)
41 歳～45 歳	369	20.4%
46 歳～50 歳	337	18.6%
36 歳～40 歳	238	13.1%
51 歳～55 歳	194	10.7%
56 歳～60 歳	173	9.6%
61 歳～65 歳	153	8.4%
66 歳～70 歳	99	5.5%
71 歳～75 歳	65	3.6%
31 歳～35 歳	57	3.1%
76 歳～80 歳	54	3.0%
26 歳～30 歳	26	1.4%
81 歳～85 歳	24	1.3%
86 歳～90 歳	8	0.4%
21 歳～25 歳	7	0.4%
16 歳～18 歳	4	0.2%
91 歳以上	2	0.1%
小学生(高学年)	1	0.1%
合計	1,811	100%

Q2: あなたの性別を教えてください。(n=1,811)

選択肢	件数(件)	割合(%)
女性	1,385	76.5%
男性	422	23.3%
その他	4	0.2%
合計	1,811	100%

Q3: お住まい(若しくはお勤め)の地域を教えてください (n=1,811)

選択肢	件数(件)	割合(%)
下連雀 5 丁目から 9 丁目	268	14.8%
下連雀 1 丁目から 4 丁目	210	11.6%
牟礼 1 丁目から 7 丁目	205	11.3%
大沢 1 丁目から 6 丁目	135	7.5%
中原 1 丁目から 4 丁目	128	7.1%
井口 1 丁目から 5 丁目	126	7.0%
上連雀 6 丁目から 9 丁目	126	7.0%
井の頭 1 丁目から 5 丁目	123	6.8%
新川 1 丁目、4 丁目から 6 丁目	114	6.3%
上連雀 1 丁目から 5 丁目	104	5.7%
深大寺 1 丁目から 3 丁目	83	4.6%
野崎 2 丁目から 4 丁目	68	3.8%
北野 1 丁目から 4 丁目	51	2.8%
野崎 1 丁目	40	2.2%
新川 2 丁目、3 丁目	30	1.7%
合計	1,811	100%

Q4: ご職業を教えてください(任意) (n=1,811)

選択肢	件数(件)	割合(%)
会社員	578	31.9%
パート・アルバイト	324	17.9%
専業主婦・主夫	298	16.5%
自営業・自由業	133	7.3%
無職	112	6.2%
公務員	95	5.2%
その他	52	2.9%
学生	9	0.5%
(無回答)	210	11.6%
合計	1,811	100%

Q5: 認知症の人と接したことがありますか？ (n=1,811)

選択肢	件数(件)	割合(%)
ある	1,356	74.9%
ない	360	19.9%
わからない	92	5.1%
私自身が認知症です	3	0.2%
合計	1,811	100%

Q6: どのような場面で認知症の人と接しましたか？(複数回答)

(Q5 で「ある」と回答した方のみ) (n=1,356)

選択肢	件数(件)	割合(%)
家族の中に認知症の人がいる(いた)	757	55.8%
親戚の中に認知症の人がいる(いた)	417	30.8%
医療・介護の現場で働いている(いた)	348	25.7%
外出先などで、たまたま認知症の人を見かけた	281	20.7%
近所付き合いの中で認知症の人と接した	213	15.7%
医療・介護の現場以外の仕事を通じて	96	7.1%
合計	1,811	100%

Q7: 認知症と聞いて思い浮かぶイメージを3つ選択してください

(3つまで) (n=1,811)

選択肢	件数(件)	全体に対する比率(%)
家族への負担(介護など)が心配	832	45.9%
地域や社会全体で支え合う仕組みが必要だと思う	757	41.8%
早く気づいて対応することが、進行を遅らせるために重要だと思う	590	32.6%
自分や家族もなるかもしれないという心配がある	539	29.8%
病状(記憶がしづらくなる、感情の起伏が激しくなるなど)の進行が不安	516	28.5%
日常生活への影響(運転、料理が出来なくなるなど)が心配	432	23.9%
予防のためにできることがある(生活習慣の見直し、社会参加など)	426	23.5%
生活の工夫や周りのサポートがあれば、問題なく生活できる	367	20.3%
ご本人の気持ちを尊重した接し方が大切だと思う	291	16.1%
穏やかで、周りを和ませるような人もいる	214	11.8%
経済的な不安(仕事が続けられなくなるなど)がある	161	8.9%
孤立しやすくなる、社会とのつながりが減るなどの不安がある	131	7.2%
その他	15	0.8%
分からない	12	0.7%
考えたくない	6	0.3%

※複数回答のため合計は 1,811 件を超えます。

Q8: あなたが認知症になった場合、どのように暮らしたいと思いますか
(複数回答) (n=1,811)

選択肢	件数(件)	全体に対する比率(%)
認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していきたい	887	49.0%
認知症になったら、介護施設で必要なサポートを利用しながら暮らしたい	674	37.2%
認知症になっても、できないことを自ら工夫して補いながら、今まで暮らしてきた地域で生活していきたい	446	24.6%
わからない	192	10.6%
その他	51	2.8%
認知症になったら(なっても)、ひとりで暮らしていきたい	47	2.6%

※複数回答のため合計は1,811件を超えます。

Q9: 「認知症になったら(なっても)、ひとりで暮らしていきたい」と回答した方差し支えなければ理由を教えてください。

全 45 件のご回答をいただきました。

Q10: 三鷹市では「認知症にやさしいまち三鷹条例(仮称)」の制定に向けた取り組みを進めています。次の中から、あなたが興味のある、または特に大切だと思う項目を3つ教えてください。
(n=1,811)

選択肢	件数(件)	全体に対する比率(%)
認知症の早期発見・早期支援(認知症の診断料助成など)	1,281	70.7%
地域における相談支援の充実(相談できる窓口の充実など)	1,086	60.0%
認知症に関する普及啓発・理解促進・本人発信支援(認知症サポーターの養成、当事者の講演会など)	619	34.2%

社会参加の機会の確保(認知症カフェ、当事者のピアサポート事業など)	554	30.6%
研究等の推進(認知症の進行を遅らせる取り組みなど)	534	29.5%
認知症の人にもやさしいデザインのまちづくり(施設等での記憶に頼らず行動できる空間づくりなど)	426	23.5%
権利擁護・意思決定支援(認知症当事者の権利の保護など)	399	22.0%
認知症施策推進計画の策定、施策の評価・検討のための仕組み	143	7.9%
その他	55	3.0%

※複数回答のため合計は 1,811 件を超えます。

Q11: あなたは、認知症になっても自分らしく暮らし続けられるまちにするために、どんなことが必要だと思いますか。ご自由にお書きください。(任意)

(n=1,061)

様々な視点から 1,061 件のご意見・ご提案をいただきました。

Q12: 認知症サポーター養成講座をご存知ですか？ (n=1,811)

選択肢	件数(件)	割合(%)
知っている	439	24.2%
知らない	968	53.5%
聞いたことはあるがよく知らない	404	22.3%
合計	1,811	100%

Q13: 認知症サポーター養成講座を受講したいと思いますか？

(n=1,811)

選択肢	件数(件)	割合(%)
受講してみたい	993	54.8%
受講したくない(興味がない)	591	32.6%
既に受講してオレンジリングを持っている。	227	12.5%
合計	1,811	100%

(3)小中学生向けアンケート(インターネット)

Q1: あなたの学年(がくねん)を教えてください。(n=438)

選択肢	件数(件)	割合(%)
小学生(5, 6年生)	148	33.8%
小学生(3, 4年生)	94	21.5%
小学生(1, 2年生)	93	21.2%
中学3年生	83	18.9%
中学1年生	11	2.5%
中学2年生	9	2.1%
合計	438	100%

Q2: あなたの性別(せいべつ)を教えてください(n=438)

選択肢	件数(件)	割合(%)
女性	220	50.2%
男性	210	47.9%
答えない	8	1.8%
合計	438	100%

Q3: あなたは、認知症(にんちしょう)という言葉聞いたことがありますか？(n=438)

選択肢	件数(件)	割合(%)
ある	320	73.1%
ない	118	26.9%
合計	438	100%

Q4:「認知症」と聞いて、どんなことだと思いますか？(複数選択)

(n=438)

選択肢	件数(件)	全体に対する比率(%)
ものわすれをしやすくなること	304	69.4%
だれでもなるかもしれないこと	236	53.9%
いつもと様子が変わることがあること	216	49.3%
まわりの人が助けることが大切なこと	214	48.9%
道にまようことがあること	213	48.6%
やさしさが必要なこと	177	40.4%
こわいもの	129	29.5%
よくわからない	87	19.9%
高齢者の人だけがかかるもの	71	16.2%
自分には関係ないこと	12	2.7%
その他	5	1.1%

※複数回答のため合計は438件を超えます。

Q5: 認知症の人に会ったことがありますか？

(n=438)

選択肢	件数(件)	割合(%)
ない	328	74.9%
ある	110	25.1%
合計	438	100%

Q6: 「そのとき、どんなことを感じましたか？」(複数選択)

(Q5 で「ある」と回答した方のみ) (n=110)

選択肢	件数(件)	全体に対する比率(%)
どう接したらいいか戸惑った	54	49.1%
助けてあげたいと思った	42	38.2%
かわいそうだと思った	33	30.0%
少しこわいと思った	24	21.8%
とくになにも感じなかった	21	19.1%
もっと話してみたいと思った	18	16.4%
その他	5	4.5%

※複数回答のため合計は110件を超えます。

Q7: もし困っているお年寄りの人を見かけたらどうしますか？(複数選択)

(n=438)

選択肢	件数(件)	全体に対する比率(%)
やさしく声をかける	249	56.8%
近くのお店の人や駅員さんなど、信頼できるおとなの人に知らせる	215	49.1%
自分ではどうすることもできないと思う	81	18.5%
見て見ぬふりをしてしまうかもしれない	80	18.3%
その他	13	3.0%

※複数回答のため合計は438件を超えます。

Q8: 認知症について、もっと知りたいと思いますか？

(n=438)

選択肢	件数(件)	割合(%)
少し知りたい	236	53.9%
とても知りたい	91	20.8%
あまり知りたくない	90	20.5%
まったく知りたくない	21	4.8%
合計	438	100%

Q9: どんなことを知りたいですか？（複数選択）

（Q8で「少し知りたい」「とても知りたい」と回答した方のみ）(n=327)

選択肢	件数(件)	全体に対する比率(%)
どうして認知症になるの？	212	64.8%
認知症ってどんな病気？	183	56.0%
私たちにできるお手つだいは？	181	55.4%
認知症の人はどんな気持ち？	158	48.3%
三鷹市ではどんな取り組みをしているの？	135	41.3%
その他	5	1.5%

※複数回答のため合計は327件を超えます。

Q10: どのような方法で知りたいですか？（複数選択）

（Q8で「少し知りたい」「とても知りたい」と回答した方のみ）（n=327）

選択肢	件数(件)	全体に対する比率(%)
先生(せんせい)や専門家(せんもんか)のお話を聞く	149	45.6%
動画(どうが)やアニメを見る	148	45.3%
学校(がっこう)のみんなで考える	136	41.6%
インターネットで調(しら)べる	132	40.4%
認知症の人と直接(ちよくせつ)お話しする	84	25.7%
マンガや絵本を読む	80	24.5%
VR(ゲームなど)で学ぶ	64	19.6%
その他	5	1.5%

※複数回答のため合計は327件を超えます。

**Q11: (さいごに)認知症のことや、認知症の人も暮らしやすいまちづくりに
ついて、あなたが思うことや、市にお願いしたいことがあれば自由に書いてく
ださい。(任意)**

(n=161)

小中学生の皆さんにいただいたご意見・ご提案等(全 161 件)は、巻末に全文掲載しています。

3. ヒアリング調査結果(概要)

市職員及び地域包括支援センターに配置されている「認知症地域支援推進員¹⁴」が中心となり、市内の介護保険施設をはじめ、認知症の人及びそのご家族・支援者の皆さんのお声を聴かせていただきました¹⁵。

(1)基本的な質問項目

- ・ 日々の生活で皆さんが楽しみにしていること、やりがいを感じていること
- ・ 日々の生活で手助けがあったらいいと感じること
- ・ 認知症の方がもっと暮らしやすくなるために始めてほしいこと
- ・ その他、高齢者福祉に関して、三鷹市へ期待すること など

(2)ご協力いただいた団体等

本報告書の作成にあたり、貴重なお話を伺う機会をいただきました以下の団体・施設の皆様に、心より感謝申し上げます(順不同)。

団体・施設名	種別等
もえぎ三鷹上連雀	介護保険施設 (認知症対応型グループホーム)
グループホームみずほ	介護保険施設 (認知症対応型グループホーム)
三鷹市高齢者センターけやき苑	介護保険施設 (認知症対応型デイサービス)
弘済ケアセンター	介護保険施設 (認知症対応型デイサービス)
野ざきの家	介護保険施設 (小規模多機能型居宅介護)
認知症介護者談話室	認知症サロン・家族会
みたか・認知症家族支援の会	認知症サロン・家族会
おれんじドア三鷹	認知症サロン・家族会
にじいろひろば	認知症サロン・家族会
MITAKA D-Cafe	認知症サロン・家族会
コミュニティ・ガーデン	認知症サロン・家族会
くらしの研究会	認知症当事者活動グループ
スリーホークス	認知症当事者活動グループ

¹⁴ 認知症の人やその家族を地域で支えるための専門職(保健師等)。医療・介護の連携強化や地域の実情に応じた支援体制の構築を担います。

¹⁵ ヒアリング調査にご協力(同意)いただける方に原則グループインタビュー形式で実施。

(3)いただいたご意見・ご提案等

ア 認知症に関する普及啓発・理解促進・本人発信支援

【ご意見】

- ・病気や薬の説明だけでなく「生活をどう続けるか」を中心にした学びや情報提供にしてほしい。
- ・認知症の人の声を会議に入れると議論が深まる(本人参加の効果)。家族の参加も必要。
- ・言葉の選び方(難語・横文字・役所文書の複雑さ)を改善。具体例・身近な言葉で。
- ・体調不良時に医師が書類を代筆した対応に「全く違う」との評価。窓口での記入支援の徹底が望まれる。
- ・「認知症にやさしいまち」のスローガンは、共生や本人・家族の目線が伝わる表現に見直しを検討。
- ・本人が会議に参加し、病院での診断後の生活課題や経済負担など、具体の声が政策議論を前進させた(市民会議での報告)。
- ・認知症サロン等の場で、本人の歌・活動(ギター伴奏と歌の発信など)を通じて自己表現と交流が生まれている。
- ・認知症をテーマにした実地の講座・交流(サポーター講座、本人・家族の語り)に満足度が高い。

【ご提案】

- ・認知症サポーター講座は「安心につながる」発信を主軸に。偏見を増やさない語り口にする。
- ・市報・講座で「生活の工夫」や地域の実例(買い物・外出・趣味・見守り)を紹介する。

イ 社会参加の機会の確保

【ご意見】

- ・自宅にこもりがちな人が気軽に出入れる場所を増やしてほしい(テーマなしの居場所、誰でも寄れる場)。
- ・若年性や働く世代にも合う活動(仕事・役割・ボランティア)を。
- ・近所での仲間づくり・軽スポーツ・散歩・趣味(カラオケ、将棋、点字図書館活用、菜園、音楽、講座)などの場が心身の維持に有効。
- ・仕事・役割の継続(お店の配達経験の回想、受付補助の相談など)が自己効力感に寄与する。

【ご提案】

- ・公会堂・コミュニティ施設の常設サロン化、参加の敷居を下げる広報をする（「来るだけで OK」など）。
- ・近隣エリア単位での「フラット（集いの場）」を拡充する。

ウ 早期発見・早期支援

【ご意見】

- ・早期発見後の「落ち込みを防ぐ支援」と生活設計の提示が不足。発見だけでは不十分。
- ・無料・低負担のチェック機会（他市の例に関心）。希望者が受けやすい仕組みを。
- ・他市の検診に関する参加者からの前向き評価あり（他市の無料検査等の紹介を望む声）。
- ・認知症専門医療機関等への相談のしやすくしてほしい（専門拠点の存在）。

【ご提案】

- ・受診後すぐ「生活・仕事・家計・家族の相談」へつなぐワンストップ支援（病院-包括-市役所連携）。
- ・年1回の健康診断と合わせた簡易スクリーニングや相談ブースの設置（希望者制）。

エ 権利擁護・意思決定支援

【ご意見】

- ・成年後見制度が「突然の口座凍結」など生活に直結するため、事前説明と手続き支援が必要。
- ・本人の意思・希望（家にいたい等）と安全・介護負担の折り合いを丁寧に支える仕組みを。
- ・後見制度の実体験共有（口座クローズ→家庭裁判所→財産管理の実際）により、備えの重要性を可視化する。
- ・「私の人生ノート」や意思表示の活用を促した説明をしてほしい（包括・市職員の間での案内）。

【ご提案】

- ・金融機関・市・社協が連携した「口座・手続きの見通し」ガイド作成と相談窓口の統一。
- ・「私の人生ノート」普及（医療・介護の希望、金銭・住まい・緊急連絡先等）と更新支援。
- ・書類記入の代筆・読み上げ・平易化（漢字でなくても受理、窓口での記入支援）を徹底。

オ 地域における相談支援の充実

【ご意見】

- ・「どこに相談すればよいか」迷う声。包括や市の窓口をもっと見えるように。
- ・介護度認定の納得感(医師意見・実情の反映)、変更手続きのわかりやすさを求める声。
- ・医療(大学病院・地域病院)と在宅(包括・ケアマネ)連携が意思決定の要。
- ・大学病院入院時の退院先検討において、病院相談員・包括・ケアマネが連携。家族の希望(在宅・訪問診療)と医療ニーズを調整。
- ・認知症サロン・介護者談話室での当事者・家族の継続相談、先輩介護者の語りによる意思決定の後押し。
- ・子育てと介護の重なり(ダブルケア)。PTA や仕事との両立困難、子の預け先不足。地域の相互助け(マンション内の助け合い)が支えになった事例。
- ・介護者支援(レスパイト・緊急対応)。散髪や通院時だけでも見守りがほしい、夜間トイレでの介助疲労など切実な声。
- ・デイ利用日を介護者の外出に活用、介護者談話室で先輩介護者の言葉が決断を支えた。

【ご提案】

- ・「7 カ所の包括×認知症地域支援推進員」の連絡先と相談可能な内容を、ガイドや市報、サロンで繰り返し周知。
- ・病院 MSW(医療ソーシャルワーカー)と包括の定期カンファレンス(退院前後支援の標準化)。
- ・ケアマネを起点とした「在宅→入院→在宅/施設」の切れ目ない相談ルートの提示。

カ 認知症の人にもやさしいデザインのまちづくり

【ご意見】

- ・歩道の段差・樹木の根・路面の傾き・自転車回避での転倒リスクが高い。整備の継続を。
- ・施設・窓口表示、案内サイン、書類デザインのわかりやすさ改善を。
- ・ひとり歩きへの地域対応(顔の見える関係、迷った人に声をかけやすい空気)。
- ・買い物・配食・暮らしの足もと支援
- ・近所の小規模店の減少で、徒歩圏の買い物が困難。配食は条件や費用・申請がわかりにくい。
- ・ことばの問題(難語・横文字・VR 体験の有効性)。用語説明がない、内容が生活に結びつかないという不満。VR 体験は「動画や寸劇で十分」だったとの

声もあり。

・住宅・負担。公団家賃の高さ、独居高齢者向けの「もう少し安い部屋」を望む声。

【ご提案】

・歩道段差・根上がりの優先整備(事例のように申請→速やかな補修の継続)、電動車いすも考慮した傾斜・幅員の再点検。

・公的書類の「大きな文字・やさしい日本語・例示・ピクト化・記入補助」標準化。

・書類・申請・医療機関での対応として、ひらがな不可・代筆不可などの取り扱いで困難に直面した例。配慮の平準化が必要。

キ 研究等の推進

【ご意見】

・生活に役立つ研究(地域見守り、位置情報の適切な使い方、偏見の実態、文書デザイン)を希望。

・海外の人権・地域共生の取り組みを学び、三鷹の実情に合わせて実装を

・福祉ラボどんぐり山での研究・連携可能性の紹介があり、条例推進に合わせた共同テーマの芽あり。

【ご提案】

・福祉ラボ等との連携で、「まちの困りごと」起点の実証(例えば案内表示のABテスト、迷いやすい交差点の手当て等)。

・偏見低減や本人・家族の意欲を高めるコミュニケーション研究(講座教材の改善)。

ク 認知症施策推進計画の策定と評価・検証の仕組み

【ご意見】

・条例は理念に偏りがち。「実行可能な項目」「年度ごとの達成目標」「進捗の見える化」を。

・市が「今年度やること」を住民に繰り返し説明し、足りない所を対話で補う流れにしてほしい。

・認知症地域支援推進員の市内配置(7カ所の包括+市役所)に予算をつけ、体制強化を宣言した点は前進した。

【ご提案】

・8本柱ごとにKPI(例:相談件数、認知症サポーター養成講座回数・受講者、道路補修件数・平均対応日数等)を設定し公開。

・年次報告会(市民会議・議会報告)でのフィードバック→次年度計画へ反映。

(参考)ヒアリングの様子



4. ワークショップ結果(概要) 🍌

地域包括支援センターを中心に、7つの日常生活圏域(中学校区毎)において、「認知症条例の制定に向けた地域ワークショップ¹⁶」を実施しました。

(1)実施時期等

地域包括 支援センター	テーマ	開催日	参加者(人)
東部	当事者家族とのワークショップ	令和7年7月4日	6人
井の頭	自分が認知症と知ったとき ～そして、私たちが考えること～	令和7年7月 23 日	40人
連雀	みんなで認知症のやおやさんの 話を聞いて考えよう	令和7年7月2日	39人
三鷹駅周辺	認知症世界の歩き方カレッジ	令和7年7月 30 日	52人
西部	認知症になっても 住みやすいまちづくり	令和7年7月 15 日	29人
大沢	認知症にやさしいまち三鷹 ワークショップ	令和7年6月 28 日	25人
新川中原	認知症について考える ワークショップ	令和7年7月 29 日	21人
合計			212人

(2)主なご意見・ご提案等

ア 認知症に関する普及啓発・理解促進・本人発信支援

・本人発信の場の重要性

認知症当事者による経験談は参加者に強いインパクトを与え、「認知症へのイメージが大きく変わった」との意見多数。当事者発信は偏見・誤解の解消に有効であり、市民・関係機関への継続した発信機会の創出が望まれる

・啓発方法・教育への工夫

小学校等で認知症サポーター養成講座を実施し、子どもの頃から偏見なき理解・接し方教育を進めてほしい。住民や若年層にも届く普及啓発活動の強化が求められる

・本人主体の情報発信

「認知症の人と言える社会に」「認知症当事者が気軽に話せる場」「発信を聞く経験談が参考になる」等の意見が多数あり、本人の声を制度やまちづくりへ反映できる仕組み整備が必要

¹⁶ 介護や医療の専門職のみならず、民生・児童委員、自治会・町会関係者や地域住民の方々にご参加いただける場として開催しました。

イ 社会参加の機会の確保

・生きがい・役割の維持

認知症になっても生きがい・楽しみが続けられるような働く場の確保や町内で役割を持てる仕組みの強化が求められる。チャレンジできる場所・社会参加できる活動が「孤独防止」に直結する

・役割に応じた支援

「できることに挑戦できる場」「本人が必要とする部分をサポート」「社会参加機会を創出」等の声が多数。個人の力を生かす人生設計を支える社会のあり方が問われている

・地域コミュニティとの連携

町内サークル等、趣味・イベント等への参加促進、地域住民・関係団体・施設が垣根を越えてつながる「顔の見える関係・孤立防止」の重要性

ウ 認知症の早期発見・早期支援

・早期発見の仕組み

健診への認知症検査追加や、もの忘れ外来の身近な導入が要望されており、自主受診のハードル低減が求められる

・相談・発見体制の強化

早期発見につながる「地域サロン」「おしゃべりの場」「見守りテック」の充実と、住民発見時の柔軟な支援につながる仕組み

・情報発信・不安解消

もの忘れと認知症の境に不安を感じる住民が多く、「相談先が明確」「早く診断して社会とつながる」「周囲の理解促進」を望む声が多い

エ 権利擁護・意思決定支援

・金融・法的手続きへの備え

金融機関手続き・資産凍結を防ぐ仕組み(家族信託・後見制度・エンディングノート等)の周知と、本人の意思・権利最優先の対応体制が必要

・意思決定支援の在り方

支援策やケアプラン設定時、当事者意思が反映される仕組みの改善。家族のみの意向で進める体制の見直しが現場から提案

・社会的孤立防止

認知症であっても「相談・発信のできる場」「本人の役割や選択権」確保、「孤立防止」に資する権利擁護施策の積極検討

オ 地域における相談支援の充実

・ワンストップ相談体制

「ここに相談！」と分かる窓口、ネット上での分かりやすい相談対応、相談ハードルの低減(専門用語排除・包括支援センターの周知等)の意見多数

・多様な相談支援

短時間・きめ細やかな説明、カテゴリー分けした相談対応、経験談共有型の相談体制(専門家・家族・当事者間交流)の拡充

・市職員・包括支援センター・福祉コーディネーターの充実

相談件数増加・マンパワー不足・職員負担増。人員配置基準の見直し、ケアプランセンター創設など新たな仕組み導入要望。離職防止・専門職連携強化が必須

・家族・介護者への支援拡充

介護者負担増加への支援、家族のフォロー体制、家族間情報共有とセルフケア促進

・福祉財源・人材不足(行政への要望)

福祉財源・人材不足、包括支援センターの離職防止策、介護施設費用の抑制、後見人制度など「使いやすい社会資源」を求める声

カ 認知症の人にもやさしいデザインのまちづくり

・公共施設・商業施設のユニバーサル化

駅・バス、スーパーその他公共サービスにおける認知症の人に優しい配慮(優先レジ、ヘルプマーク、ゆっくり対応等)、タッチパネル注文等に対するユニバーサルデザイン要請

・まち全体の理解と協力

様々な公共施設への認知症サポーター養成講座導入、商業・金融・医療関係者の理解促進。周囲の人が配慮しすぎず、本人の意思を尊重する「わかりやすいまちづくり」

・情報・声掛けの工夫

道に迷った時・異変発生時の早期発見体制、連絡放送・顔パスなど「地域見守り」「情報共有」の仕組み創設

・申請主義の見直し

制度申請型から提案・活用型へ転換すべきとの意見

キ 研究等の推進

・地域実証研究・モデル展開

地域での認知症に関する実証研究や、空き家活用・シェアハウス創設、Labo

どんぐり山等、モデル的取り組みの地域展開への期待

・治療法・薬の進歩への期待

参加者から治療薬進歩(早期発見を受け入れる環境整備)への期待も複数あり

・認知症施策推進計画の策定、施策の評価・検証のための仕組み

・市民声を反映する評価体制

会議・ワークショップ等の市民意見集約、アンケートやグループワーク結果を施策に反映。条例制定後も継続的な評価・検証・見直し体制の構築

・横断的連携・ネットワーク化

関係団体の横のつながり強化、より精度高い市全域課題整理・情報共有体制を推進



『自分が認知症と知ったとき』
～そして、わたしたちが考えること～

スペシャルゲスト
藤島 岳彦氏

若年性認知症と診断されても前向きに自分らしく歩んでいる 藤島さんのお話を聞きながら、誰の近くにもある認知症について話しましょう。

Upset-WIN!!

参加費 無料

日程 2025. 7.23 (水)

時間 14:00～16:00(開場13:30から)

場所 井の頭コミュニティ・センター新館 視聴覚室 (三鷹市井の頭2-32-30)

定員 25名(申込多数の時は抽選)

申込 6/16(月)9:00～受付
三鷹市井の頭地域包括支援センターまで

☎ 0422-44-7400

主 催:三鷹市井の頭地域包括支援センター

西部地区 地域支援連絡会

2025
7/15 火

認知症になっても
住みやすいまちづくり

14:00 ▶ 16:00

認知症になっても安心して暮らす
ために大切なことって何だろう？

決して他人事ではない『認知症』。私たちが住み慣れた地域で生活していくために、まちが・ひとが・社会がどんな風になっていくといいのか。みんなで考えませんか？

場所 三鷹市井の頭コミュニティセンター 1階体育館

内容 認知症に関する支援や施策について
グループワークを行い意見交換

おもな参加者 西部地区(井の頭・野崎・深大寺)を中心とした、民生委員やほのぼのネット員含む地域住民、介護サービス事業所、ケアマネジャー、三鷹市高齢者支援課 ほか

三鷹市西部地区包括支援センター
問い合わせ先 ☎ 0422-34-6536

【担当】 藤島・宮本

小中学生のみなさんの声(自由記述)

本調査では、小中学生のみなさんにも「認知症」や「暮らしやすいまち」について自由に記述いただきました。

※誤字や言い回しも含めて、子どもたちの思いや発想を尊重するため、原文を可能な限りそのまま掲載しています。

- ・ こども避難所のように認知症の人かな？何か困っているのかな？などお店(コンビニなど)相談がしやすい窓口ができればいいと思う。[小学生(1, 2年生)・女性]
- ・ やさしさを普通の人よりふやす[小学生(1, 2年生)・女性]
- ・ 早く治せるように、三鷹市に専門の大きな病院を作してほしい。
[小学生(1, 2年生)・男性]
- ・ 認知症の家族がいるとそれを介護するお母さんが大変。お母さんがいつもばあばのことばかりお世話して寂しい。かわいそうだと思うけど、お母さんをもう少し楽にさせてあげたいし、もっとお母さんと一緒に過ごしたい。[小学生(1, 2年生)・女性]
- ・ ないです。[小学生(1, 2年生)・女性]
- ・ 声かけをしたいもしくは、認知症の人がいるおいちにパトロールにできたら行きたい。
[小学生(1, 2年生)・男性]
- ・ 放課後に小学生が通える施設を増やしてほしい(例 けやきえん一二小)南浦小の近くにも施設が沢山あるので、是非やるべきだと感じた。子供達も身近にないと認知症について理解が深まらない。[小学生(1, 2年生)・女性]
- ・ 認知症の人がいたら優しく声をかけたり、近くの信頼できる大人に声をかけやすい町になったらいい。[小学生(1, 2年生)・男性]
- ・ 助け合いがあって優しく平和で認知症の人も普通の人と考えて遊んだりみんな元気になりたい[小学生(1, 2年生)・女性]
- ・ 認知症になってもいまの住んでいるところでずっと暮らせるようにサポートして欲しい。[小学生(1, 2年生)・女性]
- ・ 優しい街[小学生(1, 2年生)・女性]
- ・ 認知症の方と一緒に遊んでみたい。学びたい。[小学生(1, 2年生)・男性]
- ・ 特になし[小学生(1, 2年生)・男性]
- ・ もっと認知症の人を助けられる街にしたい。未来になったら、認知症の人が減ってほしい。病気の種類も減ってほしい。[小学生(1, 2年生)・男性]
- ・ やさしくしてほしい[小学生(1, 2年生)・男性]
- ・ なし[小学生(1, 2年生)・女性]

- ・ ありません。[小学生(1, 2年生)・男性]
- ・ ないです。(わからない)[小学生(1, 2年生)・女性]
- ・ わかんない[小学生(1, 2年生)・男性]
- ・ 家に忘れ物してしまった時に音で分かる様にして欲しい[小学生(1, 2年生)・男性]
- ・ にんちしょうはなんなの？わからないです。[小学生(1, 2年生)・女性]
- ・ たすけたりやさしいまちをつくってください。[小学生(1, 2年生)・女性]
- ・ 認知症の人に会ったら優しく声をかけてあげたいです。[小学生(1, 2年生)・男性]
- ・ 犯人がいたらすぐに逮捕をするようにして平和になってください
[小学生(1, 2年生)・男性]
- ・ 学校の授業で高齢者施設に行く時間を作ってきっかけがあるといいと思う。
[小学生(1, 2年生)・女性]
- ・ よくわからない[小学生(1, 2年生)・女性]
- ・ 特になし[小学生(3, 4年生)・男性]
- ・ 市の人へ 認知症の人が良い市だと思う市にしてください。
[小学生(3, 4年生)・女性]
- ・ わからないとお手伝いも助けることもできないかもしれないので、認知症がどんなものかわかりやすく勉強できる機会をつくってほしい。[小学生(3, 4年生)・男性]
- ・ 認知症の人も普通だと思ってみんなで安心、せいけつなかよしな三たか市がいいと思う[小学生(3, 4年生)・女性]
- ・ 認知症の人でも助け合い喜びがあふれる町にしたい。[小学生(3, 4年生)・男性]
- ・ 助けてささえる町[小学生(3, 4年生)・女性]
- ・ ない[小学生(3, 4年生)・男性]
- ・ 認知症の人1人1人に個別にサポートする人をつけてあげたら良いと思う。
[小学生(3, 4年生)・男性]
- ・ 認知症の方が相談しやすい人が増えてほしい[小学生(3, 4年生)・女性]
- ・ 三鷹市にいろんな掲示物を貼ってみんなにお伝えしたり、「認知症はこんなのなんだよ」とみんなに伝えたいと思います。[小学生(3, 4年生)・女性]
- ・ 認知症の人を見かけたら、困っていないか声をかけてあげられる街が良い
[小学生(3, 4年生)・男性]
- ・ 僕が出来ることをする。(お手伝い)[小学生(3, 4年生)・男性]
- ・ 大変そうな人を見たら、たすける。[小学生(3, 4年生)・男性]
- ・ お世話が出来る人が、増えるといいです[小学生(3, 4年生)・男性]
- ・ 複雑な道を作らずに、大人の人が交代して見張りをしたり、ポスターで、「高齢者に優しくしてください！」などの、必要なポスターを貼る場所を作って、みんな暮らしやすい、差別のない街が作れるんじゃないかなと、思います。[小学生(3, 4年生)・男性]
- ・ 認知症の人が自分の家が分からなくなったりした時に、気軽に助けを求められるよ

うな分かりやすい場所がたくさんできるといいと思います。[小学生(3,4年生)・女性]

・ 認知症自体がわからないからどうすればいいか全然わからない。でも助け合わなければいけないと思う[小学生(3,4年生)・女性]

・ 認知症の動画を作り、三鷹市の学校に動画を見せてもらいたい。

[小学生(3,4年生)・女性]

・ 認知症の人が暴走しないようにしてほしい[小学生(3,4年生)・女性]

・ 困っている人がいたらたすけてあげる。[小学生(3,4年生)・女性]

・ 老人ホームを増やしてください[小学生(3,4年生)・男性]

・ みんなが優しくしてくれる町になってほしい。[小学生(3,4年生)・男性]

・ 認知症などの事を手紙などに書いて欲しい[小学生(3,4年生)・男性]

・ 私のおじいちゃんは、最近、認知症になりました。認知症に優しい介護をお願いしたいです。よろしくお願いします。[小学生(3,4年生)・女性]

・ 認知症の人が気軽に相談出来る町にしたい[小学生(3,4年生)・男性]

・ 認知症の人がいても優しくする[小学生(3,4年生)・女性]

・ 認知症のことを必ず知っているまちにしたい[小学生(3,4年生)・女性]

・ おじいちゃん おばあちゃんの人をいっぱい助けてあげて下さいね

[小学生(3,4年生)・女性]

・ 私のひいおばあちゃんも認知症です。認知症は忘れやすくなるだけかと思っていましたが、とても攻撃的になり怒りやすく感情の操作がうまくできていないように感じました。そんな祖母を見て、支離滅裂なことを言ったとしても、すぐに否定をせず一旦受け入れてあげることが大事だなと思いました。認知症の理解がないとわからないことがたくさんあるので、認知症の方にはヘルプマークを付けたり、周りの理解が大切だと思うので、もっと認知症の方も生きやすいようなまちづくりができればなと思います。

[小学生(3,4年生)・女性]

・ 優しくしてください[小学生(3,4年生)・男性]

・ 1人の個室の部屋を安く住めるようにして、でもいつも1人だとつまらないからみんなでいろんな事をする大きい部屋もあると良いと思う。[小学生(3,4年生)・女性]

・ 思うこと 認知症の人でも安心して過ごせるような色んな設備がある建物があれば少し認知症の人は安心できるかもしれない。[小学生(3,4年生)・女性]

・ 認知症の人を支えるために、市民一人ひとりが認知症の人が暮らしやすいように工夫することが大切だと思います。[小学生(3,4年生)・男性]

・ もっと暮らしやすい施設を増やしてほしいです。[小学生(3,4年生)・女性]

・ 認知症の人も安心して暮らせるような街づくりをしてほしい。

[小学生(3,4年生)・女性]

・ ①認知症の人用の施設を増やして欲しい。②認知症が軽くなるリハビリができる施設や、医療機関があるといいと思う。③認知症の人といっしょに交流するプログラム

があるといいと思う。そのプログラムで認知症が軽くなる取り組みを作ったらいいと思う。④認知症の人がいたらすぐに駆け寄ってくれる人が増えてくれると嬉しい。(困っている人がいたら声をかけてくれる人が増えて欲しい。そのような市にしたい)

[小学生(3, 4年生)・女性]

- ・ 認知症の人にやさしくしてほしいです[小学生(3, 4年生)・女性]
- ・ 困っている人を助ける[小学生(3, 4年生)・男性]
- ・ 私はもう認知症アドバイザーだから言う事はありません。

[小学生(3, 4年生)・女性]

- ・ よくわかりません[小学生(3, 4年生)・男性]
- ・ わたしのおじいちゃんが亡くなる前に認知症になって、離婚したおばあちゃんが世話をすることになっていたのも、もっと市などが手伝いや訪問のサービスがあったらいいと思います[小学生(5, 6年生)・女性]
- ・ 老人ホームが安くなったらいいな[小学生(5, 6年生)・男性]
- ・ 認知症の人でも楽しく人生をおくって生きていってほしいです。認知症の人のために協力している人がすごいと思いました??これからも頑張ってください！

[小学生(5, 6年生)・女性]

- ・ 認知症の方々にとどまらずお年寄りと子供が接触できるような場所。昔遊びのふれあいなどさらに小学生 4 年生のときに総合的な学習の時間(夢育)の障害者体験で目の見えない人の話や体験は聞いたが認知症については触れられていなかったもので今となり疑問に思う。認知症の方々だって辛いこと大変なことがあると思う寄り添っていききたい。[小学生(5, 6年生)・男性]
- ・ 認知症の人に 5 分でもいいから脳トレをやって少しでも知識を覚えるといいんじゃないのかなと思います。[小学生(5, 6年生)・男性]
- ・ 認知症の人、認知症の人が忘れてしまったひとのこころのケアができる場所があったほしい。[小学生(5, 6年生)・女性]
- ・ ないです[小学生(5, 6年生)・男性]
- ・ 町のみんながやさしい声がけをする[小学生(5, 6年生)・女性]
- ・ ない[小学生(5, 6年生)・女性]
- ・ 認知症の人でも安心して暮らせる街にして[小学生(5, 6年生)・男性]
- ・ 住所や個人情報をもメモできるアプリがあればいい。具体的な内容を書けたり、ハッキリとした大きい字で表示されるのがいいと思う。[小学生(5, 6年生)・女性]
- ・ 道を広く綺麗にして下さい。運動する場所を作ってください。

[小学生(5, 6年生)・女性]

- ・ 認知症にならないようには、どうしたらいいのかが知りたいです。また、にんちしょうになった人に出会ったら、どう対応したらいいのかも、知っておきたいです。

[小学生(5, 6年生)・女性]

- ・ 身内の人に認知症の人はいないからそのまま何にもしないでいいと思う。
[小学生(5, 6年生)・男性]
- ・ 認知症の人が入れる病院をつくれればいい[小学生(5, 6年生)・男性]
- ・ 認知症の人が困っていること聞きそれをどうすればいいか考えたりしたほうがいいと思う[小学生(5, 6年生)・女性]
- ・ なし[小学生(5, 6年生)・女性]
- ・ ない[小学生(5, 6年生)・男性]
- ・ ない[小学生(5, 6年生)・男性]
- ・ 認知症は誰でもかかる可能性のある病気であることをみんなが知ってほしいと思います。また、市には認知症の人をもっとサポートしてほしいと思います。
[小学生(5, 6年生)・女性]
- ・ 認知症の人が安心して暮らせて誰でも楽しく暮らせる市にしてほしい
[小学生(5, 6年生)・男性]
- ・ 認知症のことはよくわからない。[小学生(5, 6年生)・女性]
- ・ マップや地図を置く。[小学生(5, 6年生)・女性]
- ・ 認知症になっても自分らしく暮らせるよう市民に認知症について理解してもらうような活動をしてほしい。[小学生(5, 6年生)・男性]
- ・ 道に迷う、ということがないように看板を作ったら道に迷うことがなくなると思う
[小学生(5, 6年生)・女性]
- ・ 認知症の検査が無料でできるようにしてください[小学生(5, 6年生)・女性]
- ・ 誰もががに認知症のことを理解して困っている人がいたら助けられて、認知症の方々も安心して気持ちよく生活できるようにする。
- ・ 地域保活支援センターや介護施設だけに丸投げするのではなく市民のみんながわかりあい協力することが大切だと思う。そのためには、小学生くらいから認知症についてくわしく知る・理解する必要があるから学校の授業などで学習することも大切だとおもいました。[小学生(5, 6年生)・女性]
- ・ 認知症の人を助けることが出来るか知りたいです。[小学生(5, 6年生)・男性]
- ・ 誰にしても助け合いが大切だと思いました。[小学生(5, 6年生)・女性]
- ・ 認知症の方が、楽しく安全に暮らせるようにしてほしい[小学生(5, 6年生)・男性]
- ・ 学校とかで認知症の VR の学習をさせたら良いと思う[小学生(5, 6年生)・男性]
- ・ もし家族が認知症になったら、自分はどうすればいいか気になる。
[小学生(5, 6年生)・男性]
- ・ ない[小学生(5, 6年生)・男性]
- ・ 今はまだ思いつかない。[小学生(5, 6年生)・男性]
- ・ 困っている事が分かりやすい街づくり[小学生(5, 6年生)・女性]
- ・ 認知症の VR 体験[小学生(5, 6年生)・女性]

- ・ 認知症の人が減るように何か工夫をしたいです。[小学生(5, 6年生)・女性]
- ・ 確かに、日本の超高齢化社会に対する対策は重要だが、日本の未来を考えると、それよりも優先することがあると思う。それから、年齢回答欄に、小学 6 年生がなかった。[小学生(5, 6年生)・男性]
- ・ 認知症の人が集まって話をしたり、それを手伝う人がいる場所があるといい
[小学生(5, 6年生)・男性]
- ・ 困っている人がいたら助けるように呼びかけ[小学生(5, 6年生)・男性]
- ・ ない[小学生(5, 6年生)・女性]”
- ・ 僕はおばあちゃんが認知症で、大事なことを忘れてしまった事もありました。なのでおばあちゃんをもっと助けたいと思い、知らせました。[小学生(5, 6年生)・男性]
- ・ 認知症の人たちにバリアフリーのような標識をたててはどうか。
[小学生(5, 6年生)・女性]
- ・ 安心できる取り組みをお願いします。[小学生(5, 6年生)・女性]
- ・ 認知症の人がすみやすい町作りをしてほしい[小学生(5, 6年生)・男性]
- ・ 使った物等を同じ場所に置く等の気配りをする。[小学生(5, 6年生)・男性]
- ・ 認知症パークを作って認知症の人も楽しく遊べるようにしたい
[小学生(5, 6年生)・男性]
- ・ とくにない[小学生(5, 6年生)・男性]
- ・ コンビニなどにある認知症の人向けの募金などをしたい[小学生(5, 6年生)・女性]
- ・ 誰もが関係なく認知症の人達に優しく声をかけたりできるような市になったら、認知症の人達も安心できると思う。[小学生(5, 6年生)・男性]
- ・ なるべく募金などの活動に協力する。[小学生(5, 6年生)・女性]
- ・ ない[小学生(5, 6年生)・男性]
- ・ 認知症の方専用の施設などを作ったらいいと思います。[小学生(5, 6年生)・男性]
- ・ 認知症の人でも過ごしやすい暮らし、あと認知症の人がいたら近くの人たちがすぐに助けたり、駅とかの場合は駅員さんたちが助けてあげたらより良く三鷹が発展していくと思います。[小学生(5, 6年生)・女性]
- ・ 道などを夜でも普段より少し明るくしたりして道に迷いにくくしたらいいと思う
[小学生(5, 6年生)・男性]
- ・ 認知症の人たちのために市の中で工夫をした方がいいと思います
[小学生(5, 6年生)・女性]
- ・ 認知症の人は、勝手に外に出て行っちゃうから、すわり場とかもあればいいかなあと思う。あと、認知症の人は外に出ないように、家に防犯カメラとか門を設置したらいいと思う。そして何より認知症の人のことを気持ち悪いって思わないことが大切だと思う[小学生(5, 6年生)・女性]
- ・ 助けてくれる人がいるといい[小学生(5, 6年生)・女性]

・ 認知症の人たちとかは、道を忘れたりしそうだから、自分のスマホのマップに「〇〇の家」って感じであったら「あっ、ここは〇〇さんの家」とか「ここは、自分の家」ってわかるからマップに簡単に高齢者の人でも設定しやすい感じであったらいいと思います！[小学生(5, 6年生)・女性]

・ 認知症という病気は、聞いたことがあるだけですが、人の助けなどが必要と聞いたことがあるので、少しでも助けになればいいなと思います。[小学生(5, 6年生)・女性]

・ たとえ認知症だとしても差別することの無い社会、また病院に行く機会の無い人でも早く受診出来ると良いなと思います。[小学生(5, 6年生)・女性]

・ 認知症の人専用のいぬ[小学生(5, 6年生)・男性]

・ 認知症専用のサービスがあると良いかなと思っています。これからの時代、つまりは、少子高齢化社会になっていく過程で、専用サービス、などの対策が必要になると思ったからです。認知症は、なりたくなくても、なることがある病気です。だからこそみんなで助け合い、生活していかなければならないと考えています。認知症ではなくても、高齢者の方々のための定期検診サービスを行ったこと、または、その無償化は、いわば三鷹市だけでなく、国家において、重要な政治課題だと思います。

[小学生(5, 6年生)・男性]

・ 認知症は見た目には困っているように見えないかも知れない。気づかないかも知れません。だからこそ、気づいてあげられるような、みんなが、認知症についての知識を持っているまちづくり。そうすれば、街中でもどうすればいいかわかるし、親戚や家族が認知症になった時に、どう接すれば良いのか、自分はどうすれば良いのかかわかると思います。私も親戚に認知症の方がいます。自分のことは忘れていると思います。時には、傷つくかも知れません。でも、気にしないでいいと思います。みんな、いずれ忘れるかも知れないし、いずれ自分が認知症になるリスクがあるからです。そんな時に悲しい寂しくなるかも知れません。そんな、未来でも生きやすい未来を創るのが目標です。自分の為にも、知り合いでも、友達、家族、親戚の為にも。

[中学1年生・女性]

・ 最近祖父が軽い認知症になり、自分が忘れられたらなど不安に思うことが増えています。学校の授業などで介護の仕方、いい接し方などを教えてくれると今後活用できると思います。よろしくお願いします。[中学1年生・女性]

・ 人と人とのコミュニケーションが多いまち[中学1年生・男性]

・ 特にありません[中学1年生・女性]

・ まだあまり認知症について理解できていないけれど街にポスター等を貼り出すなどして人々に理解を深めてもらう活動をすれば良いと思う[中学1年生・男性]

・ みたか認知症キッズサポーター養成講座を受けたいが、市役所に電話するのはハードルが高い。日付から選ぶ 形式で ログ フォームで申し込みできるようにしてほしい[中学1年生・答えない]

- ・ 認知症の人が不自由なく暮らせるように、周りの人が支えてあげたり、市も協力したりすることが大切だと思う。[中学1年生・女性]
- ・ 今認知症じゃない私たちができることがあるかもしれない[中学2年生・男性]
- ・ もっと色々な人に優しい街になってほしいです。[中学2年生・女性]
- ・ 認知症だと周りから見て分かるようにする。その人がどんな助けが必要なのか、どんな時になにをしたらいいのか分かりやすくすると自分たちも行動しやすいと思う。小学生など、小さい時からこういう病気があるということを教えてみんなに分かっておけるほうが、大きくなってから学ぶより頭に入りやすいと思う。[中学3年生・女性]
- ・ 老人ホームを増やす[中学3年生・男性]
- ・ 要介護認定レベルを下げる助成金を増やす[中学3年生・男性]
- ・ 認知症についての授業(当事者が先生になる)みたいなことをすれば市民の理解が深まるかもしれないと思いました[中学3年生・女性]
- ・ 認知症の人がもっと過ごしやすくなるように自分も関わっていけたらいいなと思います。[中学3年生・女性]
- ・ すでに三鷹市は暖かい街ですが、認知症の方でも三鷹市の暖かくて自然豊かなことを忘れないほど素敵な街になるといいと思います。[中学3年生・女性]
- ・ 自分はまだ若いからわかんないけど認知症は困ることが多そうだからそんな人も暮らしやすい街を作って欲しいです[中学3年生・男性]
- ・ 認知症の人達にも支障がなく生活できるまちはいいと思う。[中学3年生・女性]
- ・ ない[中学3年生・男性]
- ・ 安心して暮らせるようにしてほしい[中学3年生・男性]
- ・ 人に優しく接することが大切だと思います。[中学3年生・女性]
- ・ ない[中学3年生・男性]
- ・ 日曜日にもスパルススポーツセンターの体育館を開放してほしい[中学3年生・女性]
- ・ 学校や地域などで認知症についての勉強会のようなものを開いたら色々な人が認知症について知ることができると思います。[中学3年生・女性]
- ・ 認知症の人もそうでない人もデメリットがないようにしてほしい[中学3年生・男性]
- ・ とても良い取り組みだと思います[中学3年生・女性]
- ・ 認知症について考える時間や知る時間を作って欲しい[中学3年生・女性]
- ・ 認知症の人もそうでない人も、いろんな世代の人たちが過ごせる場所をつくる。
[中学3年生・女性]
- ・ 特になし[中学3年生・男性]
- ・ 認知症の人たちに名札と住所が書かれた物を渡して欲しい[中学3年生・男性]
- ・ 助けてあげたい[中学3年生・男性]
- ・ 困った時気軽に助けを呼びやすく話しかけやすくして欲しい[中学3年生・女性]
- ・ 認知症を預かる施設が欲しい[中学3年生・男性]

5. 三鷹市認知症地域支援ネットワーク会議

医療、介護をはじめとした認知症高齢者を支える関係者、地域資源のさらなる連携を図り、認知症にやさしいまち三鷹を実現するため、医療関係者及び介護サービス事業者等を構成員とした認知症施策や取組を検討する場として、三鷹市認知症地域支援ネットワーク会議を設置している。本会議を条例について検討する会議として位置づけている。検討に当たっては、認知症当事者や家族介護者にも参加いただいている。

三鷹市認知症地域支援ネットワーク会議委員及びオブザーバー名簿

委 員 氏 名	所 属 等
◎神 崎 恒 一	三鷹市医師会・東京都認知症疾患医療センター
菊 池 健	三鷹市医師会
木之下 徹	三鷹市医師会
東 郷 清 児	三鷹市医師会
望 月 謙 治	認知症初期集中支援チーム員
齋 藤 貴 彦	三鷹市介護保険事業者連絡協議会
小 宮 慎太郎	三鷹市介護保険事業者連絡協議会
○服 部 将 志	三鷹市地域包括支援センター
道 三 啓 悟	三鷹市社会福祉協議会
榊 山 貴 大	認知症地域支援推進員連絡会

オブザーバー氏 名	所 属 等
鈴 木 敏 明	認知症当事者
藤 島 岳 彦	認知症当事者
惣 戸 恵 三 子	家族介護者
木 村 勇 三	家族介護者

◎…会長 ○…副会長

委員任期は令和6年10月1日～令和8年3月31日

三鷹市認知症に関する当事者等市民意識調査結果 報告書

発 行 令和7(2025)年 10 月

発行者 三鷹市

〒181-8555 東京都三鷹市野崎一丁目1番1号

三鷹市健康福祉部高齢者支援課介護予防係

電 話 0422-29-8388

メール koreisha@city.mitaka.lg.jp